

難病のある人の 就労/社会参加に関するアンケート

当事者篇

2021年6月

難病者の社会参加を考える研究会

目次

調査概要	2
回答者プロフィール 性/年代/居住地	3
主たる疾患/当研究会が注目する4疾患有無/主たる疾患の区分	4
疾患発症年齢/診断年齢/進行状況/通院頻度/障害者手帳有無/指定難病受給者証有無	5
現在就業状況/就業経験社数/就業経験期間	6
【現在就業者】業種/資格/スキル	7
【現在就業者】雇用形態/就業時間/年収/企業の従業員数/企業の売上高/雇用保険加入状況	8
【現在就業者】働き方満足度/満足度の理由	9
【現在就業者】職場への貢献/貢献度自己評価の理由	10
【現在就業者】職場での評価/差別や理解不足有無とその状況	11
【現在就業者】導入を望む制度/働く上での工夫・調整/あればよいと思うサービス	12
【現在就業者】社会保険加入有無/未加入理由	13
【求職中】利用就活サービス/応募社数/内定社数/選考に通った理由/落ちた理由	14
【求職中】選考中の差別有無とその状況/疾患有無と選考の関係/社会保険有無の企業選考への影響	15
【未就業・休職中】就業していないのは疾患に起因するか/離職に至った経緯/疾患に起因する差別経験有無/その状況	16
【未就業・休職中】勤務継続のための交渉機会有無/どうすれば就労意欲が湧くか/企業選択における社会保険有無の重視度	17
職場を選ぶ上での重視点	18
自由な働き方の浸透で障害者雇用のハードルは下がるか/疾患へのコンプレックス/その解消のためには	19
関連法の理解/雇用促進につながるもの	20
自由回答詳細	21

調査概要

調査目的	難病者と雇用側（経営者層/人事担当者）のそれぞれの現状と意識を明らかにすることで、難病者雇用の課題を抽出し、難病者の社会参加推進のための提言の一助とする。 ※本報告書は、難病当事者への調査結果となる。
調査地域	全国
調査期間	2020年10月15日～2020年11月15日
調査方法	WEB調査
調査対象	難病者／難病を抱えている16歳～65歳の個人 経営者／企業/団体の執行役員相当以上 人事担当者／民間企業で採用に携わる人
収集方法	難病者／SNSによる募集/回収はWEB 経営者/人事担当者／SNSや当研究会関係者からの紹介により 依頼/回収はWEB ※ 標本抽出に偏りがあるため、本調査の結果が母集団の実情を正確に反映しているとは言えないことに留意。特に経営者は雇用問題に関心が高い層が多く回答している。
サンプル数	難病者 / 回答数580 : 有効回答数548 経営者 / 回答数56 : 有効回答数56 人事担当者 / 回答数25 : 有効回答数24
調査主体	難病者の社会参加を考える研究会
実査管理	NPO法人両育わーど

回答者プロフィール 性/年代/居住地

- 性別では男女比が1：3。
- 年代は40代（33%）が最も多く、次いで30代（29%）。
- 居住地は首都圏が中心で東京が22%、神奈川が12%

性別 全体 n=548

選択肢	n	%
男性	140	25.5
女性	403	73.5
その他	5	0.9

年齢 全体 n=548

選択肢	n	%
15歳～19歳	5	0.9
20歳～29歳	110	20.1
30歳～39歳	156	28.5
40歳～49歳	179	32.7
50歳～59歳	91	16.6
60歳～64歳	4	0.7
65歳～74歳	3	0.5

居住地 全体 n=548

選択肢	n	%
北海道	27	4.9
青森	3	0.5
岩手	2	0.4
秋田	3	0.5
宮城	11	2.0
山形	2	0.4
福島	4	0.7
群馬	4	0.7
栃木	6	1.1
茨城	12	2.2
埼玉	42	7.7
東京	123	22.4
千葉	26	4.7
神奈川	65	11.9
新潟	5	0.9
富山	6	1.1
石川	2	0.4
長野	10	1.8
山梨	5	0.9
静岡	11	2.0
愛知	31	5.7
岐阜	5	0.9
福井	2	0.4

選択肢	n	%
滋賀	1	0.2
三重	8	1.5
京都	7	1.3
大阪	22	4.0
奈良	7	1.3
和歌山	1	0.2
兵庫	25	4.6
鳥取	1	0.2
島根	1	0.2
岡山	4	0.7
広島	17	3.1
山口	2	0.4
香川	1	0.2
徳島	4	0.7
愛媛	2	0.4
高知	0	0.0
福岡	18	3.3
佐賀	1	0.2
長崎	1	0.2
大分	1	0.2
熊本	7	1.3
宮崎	2	0.4
鹿児島	5	0.9
沖縄	3	0.5

主たる疾患/当研究会が注目する4疾患有無/主たる疾患の区分

- 自由回答で主として悩んでいる疾患を集計。最も多かったのは「線維筋痛症」12%、次いで「ME/CFS」10%。
- 当研究会が注目する4疾患（線維筋痛症、ME/CFS、脳脊髄液減少症、化学物質過敏症）罹患者は23%。
- 指定難病に該当する人は66%。

主たる疾患（自由回答から集計・複数回答）

全体 n=548

疾患	n	%
★線維筋痛症	65	11.9
★筋痛性脳脊髄炎（ME） / 慢性疲労症候群（CFS）	54	9.9
全身性エリテマトーデス（SLE）	47	8.6
多発性硬化症	45	8.2
重症筋無力症（指定難病11）	25	4.6
★脳脊髄液減少症（脳脊髄液漏出症）	24	4.4
ナルコレプシー	23	4.2
一次性ネフローゼ症候群（指定難病222）	20	3.6
筋ジストロフィー	20	3.6
クローン病	15	2.7
強直性脊椎炎	15	2.7
脊髄性筋萎縮症（指定難病3）	15	2.7
筋萎縮性側索硬化症（ALS）（指定難病2）	11	2.0
潰瘍性大腸炎	11	2.0
★化学物質過敏症	11	2.0
シェーグレン症候群	10	1.8
パーキンソン病	9	1.6
視神経脊髄炎	9	1.6
ベーチェット病	8	1.5
特発性過眠症	8	1.5
脊髄小脳変性症	8	1.5
その他	189	34.5

★ = 当研究会が注目する4疾患

当研究会が注目する4疾患有無

全体 n=548

選択肢	n	%
4疾患のみ	98	17.9
4疾患と4疾患以外の両方	30	5.5
4疾患以外のみ	420	76.6

主たる疾患の区分（複数回答）

全体 n=548

選択肢	n	%
指定難病（指定難病受給者証を所持または診断書により障害者総合支援法が利用できている）	361	65.9
希少疾患（指定難病に該当しないその他の希少疾患）	30	5.5
その他研究途上の疾患（指定難病や希少疾患のように患者数が少ない訳ではないが、研究途上の疾患）	157	28.6
分からない	25	4.6

疾患発症年齢/診断年齢/進行状況/通院頻度/障害者手帳有無/指定難病受給者証有無

- 疾患発症年齢は20代が28%で最も多い。診断された年代は20代29%、30代28%。
- 症状は「慢性化」41%、進行性36%、寛解18%。
- 通院頻度は「月1回以上」が47%。
- 障害者手帳所有40%、指定難病受給者証所有53%。いずれも非所有27%。

主たる疾患の発症年齢

全体 n=548

選択肢	n	%
1歳未満	34	6.2
1歳～6歳	26	4.7
7歳～14歳	64	11.7
15歳～19歳	71	13.0
20歳～29歳	154	28.1
30歳～39歳	118	21.5
40歳～49歳	63	11.5
50歳～59歳	17	3.1
60歳～64歳	1	0.2
不明	0	0.0

主たる疾患の診断年齢

全体 n=548

選択肢	n	%
1歳未満	16	2.9
1歳～6歳	24	4.4
7歳～14歳	23	4.2
15歳～19歳	47	8.6
20歳～29歳	156	28.5
30歳～39歳	154	28.1
40歳～49歳	85	15.5
50歳～59歳	23	4.2
60歳～64歳	1	0.2
不明	19	3.5

疾患の進行状況

全体 n=548

選択肢	n	%
進行性である。	195	35.6
慢性化している。変わらない。	223	40.7
完治はしていないが、寛解している	99	18.1
分からない	31	5.7

通院頻度

全体 n=548

選択肢	n	%
定期的に通ってない	42	7.7
半年に1回以上	31	5.7
2～3ヶ月に1回以上	185	33.8
月1回以上	257	46.9
週1回以上	17	3.1
週2回以上	16	2.9

障害者手帳有無

全体 n=548

選択肢	n	%
有	219	40.0
無	329	60.0

指定難病受給者証有無

全体 n=548

選択肢	n	%
有	289	52.7
無	259	47.3

全体 n=548

障害者手帳・指定難病受給者証有無

選択肢	n	%
両方持っている	107	19.5
障害者手帳のみ	112	20.5
指定難病受給者証のみ	182	33.2
いずれも持っていない	147	26.8

現在就業状況/就業経験社数/就業経験期間

- ・「現在就業している」約60%。
- ・派遣/契約社員/正社員での就業経験社数は2～3社が多く（33%）、アルバイト/パートでも2～3社（34%）が多い。
- ・現在までの累積就業時間は「10年以上」が57%。

<就業状況質問1>

現在就業しているか 全体 n=548

選択肢	n	%
就業している	327	59.7
就業していない	221	40.3

<就業状況質問2>

現在の状況 全体 n=548

選択肢	n	%
求職中	82	15.0
就業中	315	57.5
就業未経験及び現在休職中	151	27.6

※就業状況については2通り質問しており、それぞれの回答人数を母数として限定質問を行っている。そのため、次ページ以降「就業している」「就業中」のn数が327の場合と315の場合がある。

全体 n=548

派遣・契約・正社員での現在までの就業経験社数

選択肢	n	%
0社	70	12.8
1社	133	24.3
2～3社	180	32.8
4～5社	71	13.0
6～7社	29	5.3
8～9社	15	2.7
10～14社	25	4.6
15～19社	6	1.1
20社～	19	3.5

全体 n=548

アルバイト・パートでの現在までの就業経験社数

選択肢	n	%
0社	53	9.7
1社	68	12.4
2～3社	183	33.4
4～5社	137	25.0
6～7社	35	6.4
8～9社	25	4.6
10～14社	32	5.8
15～19社	7	1.3
20社～	8	1.5

現在までの累積就業経験期間 全体 n=548

選択肢	n	%
1年未満	44	8.0
1～5年	89	16.2
5年～10年	101	18.4
10年以上	314	57.3

【現在就業者】業種/資格/スキル

- 当事者で現在就業している人の業種は「医療/福祉」系（25%）がもっとも多い。
- 所有する資格は医療分野とIT系の資格/スキルが多い。

業種

就業している n=327

選択肢		%
農業、林業	0	0.0
漁業	0	0.0
鉱業、採石業、砂利採取業	0	0.0
建設業	12	3.7
製造業	27	8.3
電気・ガス・熱供給・水道業	2	0.6
情報通信業	27	8.3
運輸業、郵便業	6	1.8
卸売業、小売業	19	5.8
金融業、保険業	13	4.0
不動産業、物品賃貸業	7	2.1
学術研究、専門・技術サービス業	22	6.7
宿泊業、飲食サービス業	5	1.5
生活関連サービス業、娯楽業	3	0.9
教育、学習支援業	24	7.3
医療、福祉	83	25.4
複合サービス事業	4	1.2
サービス業	27	8.3
その他	44	13.5
不明	2	0.6

資格・スキル（自由回答から集計・複数回答）

就業している n=327

分類	資格・スキル	n数	%
医療 20.8%	医療事務	18	5.5
	看護師	15	4.6
	作業療法士・理学療法士・言語聴覚士	10	3.1
	管理栄養士・栄養士	8	2.4
	カウンセリング	4	1.2
	医師	3	0.9
	その他医療	10	3.1
IT 19.3%	パソコン	32	9.8
	情報処理技術・ITインフラ系	20	6.1
	プログラミング	7	2.1
	WEBデザイン	4	1.2
教育・保育 10.1%	教員	16	4.9
	保育士・幼稚園教諭	9	2.8
	その他教育	8	2.4
ビジネス 9.5%	簿記	18	5.5
	秘書検定	6	1.8
	その他事務・会計	7	2.1
介護 7.6%	介護職員初任者(Ⅱ種-2級)	13	4.0
	介護福祉士	8	2.4
	その他介護	4	1.2
社会福祉 7.3%	社会福祉士	16	4.9
	精神保健福祉士	6	1.8
	その他社会福祉	2	0.6
語学 6.7%	英検・TOEIC	15	4.6
	英語	7	2.1
運転免許 5.2%	運転免許（普通車）	13	4.0
	建設機器操作	4	1.2
建築 5.2%	建設工事技術	9	2.8
	CAD	4	1.2
	その他建築	4	1.2
金融 2.8%	ファイナンシャルプランナー	5	1.5
	その他金融系	4	1.2
その他 14.1%	その他技術・技能	28	8.6
	その他資格	18	5.5

【現在就業者】雇用形態/就業時間/年収/企業の従業員数/企業の売上高/雇用保険加入状況

- 現在就業者で「正社員」は47%。
- 就業時間が「固定」であるのは54%。
- 週当たり就業時間は「20～40時間」が44%。
- 年収は「200万未満」が最も多く37%。
- 就業している企業の従業員数は「500人以上」が最も多く31%。
- 売上高は「わからない」が53%存在するが、それ以外で最も多いのは「1億未満」20%。
- 雇用保険は69%が「加入している」。

現在の雇用形態 就業している n=327

選択肢	n	%
正社員	155	47.4
契約社員	39	11.9
パート	65	19.9
その他	68	20.8

就業時間制度 就業している n=327

選択肢	n	%
固定	176	53.8
シフト	85	26.0
その他	66	20.2

週当たり就業時間 就業している n=327

選択肢	n	%
20時間未満	80	24.5
20時間～40時間	144	44.0
40時間以上	103	31.5

年収 就業している n=327

選択肢	n	%
200万未満	122	37.3
200～400万	107	32.7
400～600万	63	19.3
600～1000万	29	8.9
1000万以上	6	1.8

就業企業の従業員数 就業している n=327

選択肢	n	%
10人未満	59	18.0
10人以上50人未満	50	15.3
50人以上100人未満	26	8.0
100人以上500人未満	69	21.1
500人以上	101	30.9
分からない	22	6.7

就業企業の昨年度売上高 就業している n=327

選択肢	n	%
1億未満	64	19.6
1億以上10億未満	32	9.8
10億以上50億未満	17	5.2
50億以上100億未満	3	0.9
100億以上500億未満	9	2.8
500億以上1000億未満	2	0.6
1000億以上	27	8.3
分からない	173	52.9

雇用保険加入状況 就業している n=327

選択肢	n	%
未加入	92	28.1
加入	227	69.4
分からない	8	2.4

【現在就業者】働き方満足度/満足度の理由

- 現状の働き方の満足度は10点満点中「8点」が最も多い（26%）
- その満足度の理由として、ポジティブなものは「周囲に理解・配慮がある」「自分の裁量で仕事量や時間を調整できる」など
- ネガティブな評価の理由は「収入が少ない」「体力的にきつい・業務がハードである」など。

現状の働き方の満足度（10段階）

現在就業 n=315

選択肢	n	%
1：満足していない	11	3.5
2	11	3.5
3	22	7.0
4	25	7.9
5	22	7.0
6	37	11.7
7	44	14.0
8	81	25.7
9	29	9.2
10：満足している	33	10.5

満足度の理由（自由回答から集計・複数回答）

現在就業 n=315

疾患	内容	n	%
ポジティブ	周囲に理解・配慮がある	38	12.1
	自分の裁量で仕事量や時間を調整できる	36	11.4
	休み(有給)が取りやすい	30	9.5
	リモートワーク(在宅勤務)ができる	15	4.8
	体力面の負担が少ない	11	3.5
	やりたい仕事ができる・やりがいを感じる	8	2.5
	疾患がある中仕事ができありがたい	5	1.6
	能力を評価されている	5	1.6
	福利厚生や設備が整っている	4	1.3
その他ポジティブ	4	1.3	
ポジ+ネガ	よくしてもらっているが身体的/精神的につらい面がある	11	3.5
ネガティブ	収入が少ない	29	9.2
	体力的にきつい・業務がハードである	24	7.6
	通院や症状のため休まざるを得ない/有給がなくなる	21	6.7
	周囲に理解・配慮が得られない	21	6.7
	休みが取れない・取りにくい	21	6.7
	疾患のために思うように働けない	16	5.1
	やりたい仕事ではない・仕事を任せてもらえない	12	3.8
	正社員になれない	9	2.9
	リモートワーク(在宅勤務)ができない	8	2.5
	キャリアアップが望めない	4	1.3
	制度により仕事にヘルパー支援が受けられない	4	1.3
	その他ネガティブ	21	6.7

【現在就業者】職場への貢献/貢献度自己評価の理由

- 「職場に貢献できている」と答えた人が61%。
- 「貢献している」と思う理由は「実績を上げている（指名される・顧客が増えているなど）」
- 「なんともいえない」と答えた理由は「思うようなパフォーマンスができない」
- 「貢献していない」と思う理由は「休みがちであること」

職場に貢献できていると思うか

現在就業 n=315

選択肢	n	%
貢献できている	193	61.3
貢献できていない	31	9.8
どちらともいえない	91	28.9

貢献度の理由（自由回答から集計）

現在就業 n=315

自己評価	内容	n	%
貢献している	実績を上げている・指名されている	32	10.2
	自分しかできない仕事・専門的な仕事をしている	30	9.5
	仕事を任される・参加を求められる	24	7.6
	健常者と同じように働けている・課せられたことを果たしている	22	7.0
	よい評価を受けている	19	6.0
	自分一人で仕事をこなしている	8	2.5
	多くの仕事量をこなしている	6	1.9
	人一倍努力している	4	1.3
	その他	19	6.0
なんともいえない	思うようなパフォーマンスができない・成果が出せない	20	6.3
	まだ日が浅いのでわからない	9	2.9
	難度の低い仕事しか与えられない	7	2.2
	休みがち	6	1.9
	自分ではわからない	6	1.9
	周囲に負担をかけている	5	1.6
	周囲からの評価が低い	4	1.3
	現状に自分自身が不本意である	4	1.3
	自分なりにがんばれている	4	1.3
	自営業である	4	1.3
	その他	2	0.6
貢献していない	休みがち・休職中	13	4.1
	（健常者と比較して）成果を上げられない	6	1.9
	難度の低い仕事しか与えられない	2	0.6
	パフォーマンスが低い	2	0.6
	その他	5	1.6

【現在就業者】職場での評価/差別や理解不足有無とその状況

- 職場からの評価は「良い」82%、「悪い」18%。
- 疾患に対する差別、無理解を「感じたことがある」57%。
- 具体的には「上長が症状を理解していない」51%、「陰口があった」41%など。「その他」の自由回答ではパワハラやいじめに相当する経験をした人も。

職場からどのように評価されているか

現在就業 n=315

選択肢	n	%
良い評価	67	21.3
どちらかというが良い評価	191	60.6
どちらかというが悪い評価	47	14.9
悪い評価	10	3.2

疾患に関する差別や理解不足を感じたことがあるか

現在就業 n=315

選択肢	n	%
ある	180	57.1
ない	135	42.9

具体的な事象（複数回答）

差別・理解不足経験者 n=180

選択肢	n	%
上長が症状を理解してなかった	92	51.1
人事評価で不当な評価を受けた	39	21.7
周りから陰口があった	74	41.1
明らかにレベルの低すぎる（もしくは高すぎる）業務を任される	47	26.1
その他	56	31.1

具体的な事象「その他」の内容（自由回答集計）

差別・理解不足経験者 n=180

内容	n	%
誤解や無理解	15	8.3
できない仕事、負荷の高い仕事を命じられた	11	6.1
嫌味や冷淡な態度、迷惑そうな態度をとられた	10	5.6
パワハラ、いじめ、中傷を受けた	8	4.4
辞めることを勧められた・解雇・不採用・降格	5	2.8
配慮を求めても受け入れられない	3	1.7
その他	4	2.2

【現在就業者】導入を望む制度/働く上での工夫・調整/あればよいと思うサービス

- 導入を望む制度として、「通勤休暇」が57%、「在宅勤務」が45%、「時短勤務」が38%。
- 働く上で行っていることは、「周囲に疾病のことを開示し協力を得ること」が最も多かった。次いで「時間の調整」「テレワーク」。
- 自由回答で訊いた「あればよいと思うサービス」は、「なし・わからない」が多かったが、比較的多く挙げられたのは「就労時の訪問介護」。

就労しやすさのため導入を望む制度

現在就業 n=315

選択肢	n	%
時短勤務	119	37.8
通院休暇	178	56.5
在宅勤務	142	45.1
その他	82	26.0

現在就業 n=315

働く上で行なっている工夫や調整（自由回答集計・複数回答）

内容	n	%
周囲に開示し協力を得る	122	38.7
時間の調整（フレックス、時短など）	47	14.9
テレワーク・在宅勤務	43	13.7
体調優先・無理をしない	20	6.3
通院への配慮を得る（勤務時間内通院許可、休みなど）	20	6.3
休憩・横になる	18	5.7
健康管理	16	5.1
業務内容調整	11	3.5
産業医のサポートを得る	5	1.6
融通の利く職場の選択	4	1.3
その他	12	3.8

現在就業 n=315

就労環境の向上のためあればよいと思うサービス（自由回答集計・複数回答）







内容	n	%
就労時の訪問介護	30	9.5
カウンセリング・コーチング・職場との調整窓口	13	4.1
在宅勤務	9	2.9
仮眠室・休憩室	8	2.5
難病指定・手帳	7	2.2
移動介助	7	2.2
啓発活動	6	1.9
通院休暇・不調時の有給休暇	6	1.9
フレックスタイム	5	1.6
機器レンタル	5	1.6
就労・再就職支援	4	1.3
家事サポート	4	1.3
その他	25	7.9

【現在就業者】社会保険加入有無/未加入理由

- 社会保険は、「自身で加入している」が75%。
- 「加入したかったができなかった」(12名)の理由で多かったのは、「勤務時間の問題」。




社会保険加入

現在就業 n=315

選択肢	n	%	
加入している(自身での加入)	235	74.6	
加入している(家族の扶養での加入)	38	12.1	
加入していない(今後は加入する意思はある)	13	4.1	
加入していない(今後も加入する意思はない)	9	2.9	
加入したかったが加入できてない	12	3.8	
分からない	8	2.5	

加入できなかった理由

したかったができなかった n=12

選択肢	n	%	
勤務時間の問題	7	58.3	
契約上の問題	3	25.0	
体力的な問題	2	16.7	
その他	0	0.0	

【求職中】利用就活サービス/応募社数/内定社数/選考に通った理由/落ちた理由

- 求職中の人最も利用しているのは「障害者向けのハローワーク」43%。
- 応募した社数は「2～3社」が最も多い（23%）。「0社」も22%存在する。
- 1社以上内定を得ている人は26%。
- 内定者が選考に通った理由として最も多いのは「自己PRや志望動機がうまく伝わった」。
- 選考に落ちた理由として最も多いのは「自身の疾患への懸念」。

利用している就職活動サービス(複数回答)

求職者 n=82

選択肢	n	%
ハローワーク（難病患者就職サポーターによる支援）	21	25.6
ハローワーク（障害者向け）	35	42.7
ハローワーク（一般）	21	25.6
就労支援サービス	19	23.2
転職エージェント	15	18.3
直接応募、リファラル採用（推薦、紹介）	19	23.2
その他	17	20.7

応募社数

求職者 n=82

選択肢	n	%
0社	18	22.0
1社	15	18.3
2～3社	19	23.2
4～5社	10	12.2
6～9社	4	4.9
10～14社	7	8.5
15～19社	3	3.7
20～49社	3	3.7
50社～	3	3.7

内定社数

求職者 n=82

選択肢	n	%
0社	61	74.4
1社	12	14.6
2社	3	3.7
3社	2	2.4
4社	3	3.7
5社～	1	1.2

選考に通った理由（複数回答）

内定者 n=21

選択肢	n	%
自身のスキルとマッチングした	7	33.3
自己PRや志望動機がうまく伝わった	10	47.6
面接官との相性が良かった	8	38.1
障害者雇用の枠だった	5	23.8
その他	3	14.3
不明	3	14.3

選考に落ちた理由

不採用経験者 n=49

選択肢	n	%
自身のスキルとマッチングしなかった	9	18.4
自己PRや志望動機が伝わらなかった	2	4.1
面接官との相性が悪かった	1	2.0
自身の疾患への懸念があった	17	34.7
オフィス環境が整ってなかった	4	8.2
その他	16	32.7

【求職中】選考中の差別有無とその状況/疾患有無と選考の関係/社会保険有無の企業選考への影響

- 求職中に「疾患を理由に差別を感じたことがある」は57%と半数以上。
- 具体的には「面接時に疾患について過剰な反応を示された」57%、「病気を開示したら不当に選考から外されたように感じた」45%など。
- 78%が「疾患がなければ選考に通ったと思うことがある」。
- 社会保険加入有無の重視度は、5段階の評価で最高の「5」が35%と最も多い。

選考中に疾患を理由に差別を感じたことがあるか

求職者 n=82

選択肢	n	%
ある	47	57.3
ない	35	42.7

具体的にどのように差別を感じたか(複数回答)

選考中に差別を感じた n=47

選択肢	n	%
病気を開示したら不当に選考から外されたように感じた	21	44.7
病気を開示したら不当に内定を取り消されたように感じた	6	12.8
面接時に疾患について過剰な反応があった	27	57.4
疾患について細かい確認が多かった	17	36.2
その他	11	23.4
不明	4	8.5

疾患がなければ選考に通ったと思うことがあるか

求職者 n=82

選択肢	n	%
ある	64	78.0
ない	18	22.0

求職者 n=82

社会保険等の加入の有無は企業を選ぶ際にどれくらい重要か(5段階評価で)

5段階評価	n	%
1 : 重要でない	10	12.2
2	1	1.2
3	23	28.0
4	19	23.2
5 : 重要	29	35.4

【未就業・休職中】就業していないのは疾患に起因するか/離職に至った経緯/疾患に起因する差別経験有無/その状況

- 現在就業していないことに対し、87%が「疾患が起因している」と答えている。
- 就業していた人が離職した理由は「自身の疾患の悪化」が64%と最も多い。
- 就業中に疾患に起因する差別を感じた経験があるとしたのは43%。
- その内容として最も多かったのが「通院休暇に対して理解のない態度を示された」というもの。

現在就業していないのは疾患に起因するか 未就業・休職中 n=151

選択肢	n	%
起因している	132	87.4
起因していない	19	12.6

就業していないのは疾患に起因する n=132

疾患に起因する具体的な事象 (自由回答から集計・複数回答)

内容	n	%
症状が就業に耐えられない	84	63.6
寝たきり状態である	12	9.1
体調に波がある	9	6.8
家事との両立ができない	5	3.8
移動困難	5	3.8
職場の理解が得られない	4	3.0
精神的不安定	3	2.3
家族・医師の反対	3	2.3
その他	10	7.6

未就業・休職中 (不明回答除く) n=125

(就業経験者に) 離職に至った経緯 (複数回答)

選択肢	n	%
現場、上長の理解がなかった	34	27.2
自身の疾患が悪化した	80	64.0
業務に適応できなかった	32	25.6
会社になじめなかった	9	7.2
仕事がつまらなかった	4	3.2
その他	37	29.6

未就業・休職中 (不明回答除く) n=119

(就業経験者に) 疾患に起因する差別を感じたことはあるか

選択肢	n	%
あった	51	42.9
なかった	68	57.1

(差別があった人に) 具体的な状況 (複数回答) 差別があった n=51

選択肢	n	%
自身のレベルに見合わない業務を振り分けられた	17	33.3
通院休暇を取ろうとすると怪訝な態度を取られた	24	47.1
同僚と比較して業務の内容が大きく異なった	10	19.6
重要な業務を任せられなかった	9	17.6
その他	22	43.1

【未就業・休職中】勤務継続のための交渉機会有無/どうすれば就労意欲が湧くか/企業選択における社会保険有無の重視度

- 就労時に勤務継続のための交渉の機会を「持てた」38%。「持てなかった」62%。
- 「どうすれば就労意欲が湧くか」との質問には、41%が「疾患により就労できる状態にない」、36%が「自身の疾患の寛解」と答えた。
- 就活・就労時にあればよいと思うサービスを自由回答で訊いたところ、イメージが湧かないためか回答数は少ないながら、「就労を支援し、相談できる第三者窓口」を希望する声が多かった。
- 社会保険加入有無の重視度は、5段階の評価で最高の「5」が38%と最も多い。

未就業・休職中（不明回答除く） n=112

（就業経験者に）勤務継続のための交渉の機会有無

選択肢	n	%
持てた	43	38.4
持てなかった	69	61.6

どうすれば就労意欲がわくか（複数回答）

未就業・休職中 n=151

選択肢	n	%
自身の疾患の寛解	55	36.4
社会的な意識の変化	16	10.6
健常者との差別なく業務、キャリアステップが踏める	7	4.6
疾患により就労できる状態ではない	62	41.1
その他	4	2.6

未就業・休職中 n=151

就活・就業時にあればいいと思うサービス（自由回答から集計・複数回答）

内容	n	%
相談・就労支援・職場との交渉窓口	19	12.6
テレワーク・在宅勤務・リモート面接	18	11.9
フレックスタイム・時間配分の自由裁量	14	9.3
休みが取りやすい環境	12	7.9
疾患への理解	10	6.6
障害者手帳のない難病者へのサポート	6	4.0
送迎サービス・移動介助	5	3.3
ヘルパー、家事サポート	4	2.6
横になれる・休憩できる	4	2.6
当事者同士の交流	2	1.3
試験的就労	2	1.3
その他	4	2.6

未就業・休職中 n=151

社会保険等の加入の有無は企業を選ぶ際にどれくらい重要か（5段階評価）

5段階評価	n	%
1：重要でない	17	11.3
2	13	8.6
3	45	29.8
4	19	12.6
5：重要	57	37.7

職場を選ぶ上での重視点

- 現在の状況別に職場を選ぶ上での重視点を尋ねたところ、就業中の人で重視度が高いのは「業務内容」「勤務地」「疾患への配慮」で拮抗。低いのは「オフィス環境」。
- 求職中の人では「疾患への配慮」が高く、低いのは「キャリアステップ」。
- 未就業・休職中の人と同じく「疾患への配慮」が高く、「キャリアステップ」が低い。

(就業中) 現在の職場を選んだ際に重視した条件上位3位まで

現在就業中 n=315

選択肢	n				%			
	1位	2位	3位	1-3位計	1位	2位	3位	1-3位計
疾患への配慮	81	42	43	166	25.7	13.3	13.7	52.7
収入	26	39	58	123	8.3	12.4	18.4	39.0
キャリアステップ	25	25	25	75	7.9	7.9	7.9	23.8
勤務地	63	70	48	181	20.0	22.2	15.2	57.5
勤務時間	17	46	43	106	5.4	14.6	13.7	33.7
業務内容	67	64	53	184	21.3	20.3	16.8	58.4
オフィス環境	6	13	15	34	1.9	4.1	4.8	10.8
その他	30	5	16	51	9.5	1.6	5.1	16.2

(求職中) 企業を選ぶ上で重視したい条件上位3位まで

求職中 n=82

選択肢	n				%			
	1位	2位	3位	1-3位計	1位	2位	3位	1-3位計
疾患への配慮	47	12	6	65	57.3	14.6	7.3	79.3
収入	7	9	16	32	8.5	11.0	19.5	39.0
キャリアステップ	0	3	6	9	0.0	3.7	7.3	11.0
勤務地	9	24	10	43	11.0	29.3	12.2	52.4
勤務時間	3	20	19	42	3.7	24.4	23.2	51.2
業務内容	11	11	10	32	13.4	13.4	12.2	39.0
オフィス環境	5	1	10	16	6.1	1.2	12.2	19.5
その他	0	2	5	7	0.0	2.4	6.1	8.5

(未就業・休職中) 就職活動するとしたら重視したい条件上位3位まで

未就業・休職中 n=151

選択肢	n				%			
	1位	2位	3位	1-3位計	1位	2位	3位	1-3位計
疾患への配慮	102	12	13	127	67.5	7.9	8.6	84.1
収入	2	33	38	73	1.3	21.9	25.2	48.3
キャリアステップ	1	1	12	14	0.7	0.7	7.9	9.3
勤務地	12	39	19	70	7.9	25.8	12.6	46.4
勤務時間	9	37	23	69	6.0	24.5	15.2	45.7
業務内容	16	15	25	56	10.6	9.9	16.6	37.1
オフィス環境	3	7	9	19	2.0	4.6	6.0	12.6
その他	6	0	3	9	4.0	0.0	2.0	6.0

自由な働き方の浸透で障害者雇用のハードルは下がるか/疾患へのコンプレックス/その解消のためには

- 頼地湧な働き方が浸透すれば障害者雇用のハードルが下がると思うかどうかは、「思う」60%、「どちらでもない」23%、「思わない」18%。
- 「どちらでもない」「思わない」と答えて理由として、社会の意識が変わることが必要との意見が多かった。
- 全体への質問で、仕事の上で疾患にコンプレックスを感じる事が「ある」としたのは81%。
- 「どうすれば解消されるかと思うか」との質問には、最も高かった答えは「周囲や社会の理解」71%。

全体 n=548

より自由な働き方の浸透が進めば障害者雇用のハードルは下がると思うか

選択肢	n	%
思う	327	59.7
どちらでもない	125	22.8
思わない	96	17.5

どちらでもない n=125

「どちらでもない」と答えた理由(自由回答集計)

内容	n	%
社会意識の問題	32	25.6
制度設計の問題	20	16.0
受け入れ企業側の問題	17	13.6
定義の問題	15	12.0
当事者側の問題	12	9.6
社会情勢の問題	5	4.0
その他	6	4.8

★自由回答詳細は巻末に記載

思わない n=96

「思わない」と答えた理由(自由回答集計)

内容	n	%
社会意識の問題	37	38.5
制度設計の問題	30	31.3
受け入れ企業側の問題	14	14.6
定義の問題	5	5.2
当事者側の問題	5	5.2
社会情勢の問題	2	2.1
その他	0	0.0

★自由回答詳細は巻末に記載

全体 n=548

仕事をする上で疾患にコンプレックスを感じることもあるか

選択肢	n	%
ある	444	81.0
ない	104	19.0

コンプレックスあり n=444

(ある人に) どうすれば解消されると思うか(複数回答)

選択肢	n	%
疾患の寛解	273	61.5
周囲や社会の理解	315	70.9
自分の置かれた状況を受け入れる	189	42.6
その他	55	12.4

関連法の理解/雇用促進につながるもの

- 障害者雇用促進法と障害者総合支援法の違いについては、64%が「理解していない」。
- 「どうすれば難病者の雇用促進につながるか」との質問には、「社会全体の意識改革」（76%）が最も高く、次いで「テレワークの推進」63%。

全体 n=548

障害者雇用促進法と障害者総合支援法の違いの理解

選択肢	n	%
説明できるし、理解している	81	14.8
説明できないが、理解している	118	21.5
理解していない	349	63.7

全体 n=548

どうすれば難病者の雇用促進につながると思うか(複数回答)

選択肢	n	%
テレワークの推進	347	63.3
ダイバーシティの取り組み強化	178	32.5
法改正	289	52.7
社会全体の意識改革	414	75.5
就労における介助者費用の公的負担の拡充	283	51.6
その他	63	11.5

自由回答詳細

- 「より自由な働き方が浸透すれば障害者雇用のハードルは下がると思うか」との問いに「なんともいえない」「思わない」と答えた人の、その理由
- あなたの「理想の働き方」について

「より自由な働き方の浸透が進めば障害者雇用のハードルは下がると思うか」の問いに「どちらともいえない」「思わない」と答えた理由 自由回答詳細

該当者221名中無回答・「わからない」を除く全回答

社会意識の問題
あまり浸透していないから
そもそも偏見や差別を無くさないと無理だと思う。
そんなに理解が得られるとは思えない
どうせ変わらない。差別は根強い
ハードルが下がるか否かは、職種や業務内容によると思います。自由な働き方だけではなく、難病や障害への理解が社会的に進む事が大切だと感じます。
ハードルは下がると思うが、勤務時間についての理解がされるかどうかはわからない
バリアフリーや障害者と共に生きる生活などといわれても、実際そこまでは進んでいないように感じる。だから、変わらないとおもう。
まず、浸透に期待できない
まず実績を残して社会から攻めないと浸透していかないのかなと思う。障害者が運営する会社がもっと増えて欲しいし、そのためにはどうしたらいいかみんなで集まって交流できる場があるといいと思う。障害の数だけ人はいるのだから数の暴力(言い方悪くてごめんなさい)で攻めたい。
一番の壁は社会(健常者サイド)の無理解だと思うので、働き方だけを変えたところでダメなんじゃないかな(何もやらないよりはまし、程度)制度を柔軟化させるのと並行して当事者も含めて社会への理解の希求や真の意味でのインクルーシヴ教育は不可欠だと感じている
何かしらの偏見がありそう
何かしら周りからの厳しい意見が多そう
何かと健常者優先社会だから、障害者雇用のハードルはあまり下がらない気がする
可能性はあるがそもそも障害者というものを世間が知らないので、まずは知ってもらわなければならない気がする
会社内のルールよりも周りの人の理解が大切かと思う
簡単には変わらない
簡単に人の考え方が変わらない いやいやながら 国の制度のために 請け負っているだけである。統合失調症の人と会ったことがあるけど実際 非常に困って こちらも困惑した
業務そのものが変わる訳ではないため。
健康な人からの差別意識や理解のなさはなかなか変わらないと思う。
見た目など分かりにくい疾患への理解がない社会だと感じる
見下されているから。病気は使いでがなくて、役に立たないから
差別や偏見は無くならないと思う。
市場は安くこき使える奴隷を求めている、心身の弱い者は求められていない
指定難病への理解は浸透していない。
自分の考えを変えない人が必ずと言っていいほどいる
自由な働き方ができるからといって障がい者を採用しようという考えにはならない気がする。
自由になったとしても難病に対して理解がなければハードルは、下がらないと思う
疾患や障害が理解されない、症状が安定しない、バリアフリーでない
実際にその病気の辛さはなった人しか分からないと思います
社会に、障害者を雇用する意識が低い。義務感のみで仕方なくやっている雰囲気がある。
社会の障がいや疾患に対する理解が広く深く浸透しない限り雇用へつなげると思えない
社会の理解が進んでいない
社会的な受け入れが遅れてる。障害者の時給を上げるのが最優先
周りの理解が得られないと思う
所詮、障がい者。健常者の邪魔ものだから
所詮は健常者社会だから
障がい者の認知度が低い
障害という言葉を聞いただけで思考停止している感じが世の中にある。

障害を持って勤務している人が周囲にいないから。
障害者と難病では周囲の理解度に雲泥の差がある
障害者に対する偏見や差別が根強い為、障害者の就労は厳しいままだと思う。中途障害者や在職中の発症等についてだけでももう少し手厚くしてもらえれば良いのではないか。障害者と言っても、色々なパターンがあるので一概には言えないですが。
障害者の差別があるから
障害者の労働に対する偏見はまだあるから
障害者や難病患者に対する考え方や差別する思想が変化しなければ、何も変わらないと思う。障害や難病をマイナスとだけ捉え、本人の得意な所や良さを全く見ないため、健常者の方がいいと思い企業側は雇用すると考えるから。
障害者を雇用すると面倒、手間が増えるというような人々の意識の方が問題で、働き方の変革で障害者雇用が多少は増えても、結局大きく増えるに至らないと思う。
障害者本人は働きやすくなると思うが、休みがちだったり人とは遅れてしまうため、結局障害者は使えない、と言われると思うし、本人もこんなだったら自分はいない方が迷惑がかからない、と思う。
上がると思いたいが、社会は健常者寄りにできているので
条件面では働きやすくなると思うが、障害に対する理解がなければ難しいと思う。
職場には、まだまだ障害がある人は劣っているという風潮があるような気がする
浸透が進むことはもちろんですが、社会的にも障害者、健常者などのカテゴリーがなく共生や対等に差別のない意識が減らないかぎり特別扱いなどといわれたり居心地のわるさは残ってしまう気がする
人間は健常者ほど変化を必要としていないものである
制度ができて意識が変わらないと難しいと思う
働き方が自由になったからといって、障害者や疾患持ちが働きやすくなるとは限らないと思うから。働き方より結局は理解や助け合える環境があるかどうかだと思う。
働き方が自由になっても、「仕事の成果と障害の有無は関係ない」という認識を社会が共有するにはまだかなりの時間がかかるだろう。
働き方が浸透したとしても、周りの理解が一番重要だと思う。差別がないとか、特別視されないとか。
働き方だけでなく周囲の理解も必要になると思う
働けるかもしれないが、差別または反対に気を遣われすぎて特別扱いをされる可能性がある。
難病への理解が得られるとは思えない
難病差別はなくならないと思い知ったから
能力を忖度されている
病気に対する理解もないと継続出来ないから
病気のことを気にされる
病状によって理解を得るのは厳しいと思います。
病状の理解を得辛いため
理解
理解されるのが難しいから
理解と寛容がすまないと
理解はあまり進んでいないと感じる。
理解者が少ないから。

制度設計の問題

「より自由な働き方」が障害者目線で考えられてるとは思わないからです。
しっかりできる人を選ぶと思います
そもそも障害者手帳を持てることが大変
ハードルが下がり過ぎでも職の質も下がってしまうから
マジョリティの政策が先に浸透する
まずは正職から体制を整えていくのではないかとするため
より自由な働き方というのが、個人的により障害者にとって不自由になっていくような気がするから。障害があるから、その人だけ特別扱いは差別を助長しかねないと感じるから。
一般採用に比べて、給与が低く設定されるから。

会社に利益を出せない人の雇用は元々高いから
確かに障害者雇用の「機会のハードル」は下がるとは思いますが、それによって、障害者間の(就業に向けた)競争が激しくなるので、全体のパイが大きくならない限り、十分な賃金を伴う障害者雇用が広がるとは思えないから。
企業側としてハードルを下げることで仕事、内容などの質が悪くなるから
結局のところ障がいのある人よりも健常者を必要としている
結局は健常者と比べられ、生産性を高い方を取るのを経営上当たり前だから。
結局安く使われるので
和向健常者目線で物事が考えられており、正さやりや働さやりを訴える健常者は入した不便でない事を言っていると思うから最初から障害者目線で障害福祉、働き方を整えれば色々な人が働きやすくなると思う
健常者でも障がい者でもないもので、どちらからも弾かれるため
健常者と対等では同じようには難しく感じた
健常者と同じものを求められても応えることが難しい。
健常者へのウエイトがかかる
最終的には個人と会社との契約になるわけで個々のケースそれぞれに様々な複合的な要因が伴い一概に判断するのは難しい
指定難病の一部は障害者雇用に入らないから。
自身は難病患者で障害者雇枠は対象外な為
自由な働き方になれば健常者のほうがより仕事ができるので障害者の雇用は減ると思う
自由な働き方の中に、障害者や疾病を持つ方でも労働力になる、事業に貢献できる働き方の実例、モデルを具体的に示さないと、今までになかった働き方は言葉だけでは伝わらないと思います。そういった働き方をされている方々を集め、意見集約したり事例集約して、貢献度を具体的に示すことが大事だと思います。
自由になれば健常者はもっと自由にできるから
自由には責任が伴うから
自由過ぎると、非正規しか就労の場がない
就職できるチャンスは増えるかもしれないが周りの理解が必須であるので。また障害者手帳のない難病等の疾患持ちには不利なことにかわりない
障害者という概念、障害者雇用はなくなれば良い。全ての人が多様な働き者を選べる社会であるべき。そして、そのようなサービスのアイデアがあるので、新しいサービスがたくさん出来れば良い。私は、システムのスキルがないので、チームが作れれば可能と思う
障害者の中でも、四肢欠損などの再発リスクの低い人達から雇用されていき、再発リスクの高い精神や難病は劣後するだろうし、そもそも障害者雇用の対象ではない
障害者の定義について雇用関係の法律で現状よりも広くしていく必要があると思う。手帳を有しないと意味がないような法律なので。
障害者の幅がひろすぎる、障害者の枠に入れられない人も多いため
障害者雇用では身体は楽かもしれないが収入が減ると困る
障害者雇用の賃金は障害年金を受給していることを想定した賃金なのでは？と思っているため、障害者雇用の賃金引き上げがなければハードルは下がらないのではないかと考える。(私個人は障害者雇用の賃金では生活が成り立たないため、一般雇用で就労中)
障害者雇用は会社で一定数しか確保されてないので奪い合いになると思う
障害者雇用は別枠で確保されていると思う。
障害者手帳の等級によって、雇用されない。
成果は継続して求められるため
政府が取り組んでいないから良いところや悪いところが分からない。よって、何に対しても判断しにくい。
体調により短時間勤務など、勤務時間が流動的になるには程遠いと感じる
体調や重症度に応じた支援がないと変わらないと思います。
単純な身体障害の場合(痛みやダルさなどが無い)例えばテレワークなら通勤しなくて良い事でハードルは下がるが、他は会社の思う通りに動けない事で逆に不利になると思う。
働き方が自由になったとしても病気がある人より健康な人を採用すると思うから
働き方の幅が広がると、それだけ自己管理能力が必要となる。障害によっては ある程度の型にはめた働き方でないと難しいのではないかと思う。
働く条件が少ないので

同じ条件であればいつ何が起きるか分からない障害者より健常者を雇用すると思うので…
難病者を健全者と比較する時点で、自由になっても、その溝は、解消しないと思います。
法定雇用率の算定基準が現状のままでは変わらないと思う。
問題は働き方ではなく、職場環境や通勤環境がネックだと思うから
労働分野の規制緩和は労働者に選択権があるかの体を装うがしばしば実質的なコストカットを目的としており、低賃金を長時間労働でカバーするような働き方をせざるを得なくなる

受け入れ企業側の問題

1人で何役もこなすような中小企業だと雇用のハードルが高いのでは。
そもそも企業が障害について理解してるかの問題じゃないか
できればもちろん良いが、現在就労している中小企業には上記に対応できるだけの資金や人員がない。
より自由な働き方が出来る職場は少ないため
一部職種や大企業でしか自由な働き方にならないように思うため。
企業の意識が低いため
企業の周囲の捉え方で良くも悪くもなりそうなので
企業側の意識が変わらなければ、雇用の絶対数が増加しないと思います
軽い身体障がい为前提に採用を考える企業が大多数だから。
結局は、その採用する人次第だから、すぐには変わるとは思わない。変わってほしいけど。
結局企業次第のため
自由な働き方が進んでも、上司(雇用主)の理解が無ければ障害者雇用のハードルが下がると思えないから
自由な働き方の浸透が進めば、働く方法としては良くなると思うが、会社の障害に対する理解や教育機関がそういう会社を紹介してくれるという状況ができなければ意味がないと思うから。ちなみに僕は教師がそういう会社を知らず、先輩当事者のおかげで就職できました。
障害雇用助成金を貰むように申請する割には何にも私に寄り添ってくれる環境整備が全くない工場入企業)
障害者を雇用しようという企業は大都市を除いては決して多くはないと思うし、テレワークなどが浸透していてもハードルが下がるかどうかは疑問。
障害者を受け入れる企業の体制やそれを支える制度の設備が整わない限りは難しい、働き方の自由化だけではどうにもならない。
障害者を受け入れる側の勉強不足によって障害者が過ぎた遠慮をしてしまう。
障害者側は働こうと思うが、そこまで配慮しなくてはいけないなら雇ってられない、というのが企業側の意見ではないかと思う。
職場に聾啞者の方々がいるがイジメられようが叩かれようが会社は何もしてない。
職場の規模によると思う。大手企業であれば、中小企業より障害者雇用の枠数も多いし、融通が利くから。
職場の病気への理解によってだと思う
職場の雰囲気、職場の人間が理解しない場合、さぼってる等の陰口を叩かれることは容易に想像できる。B型事業所に一度行って見たが、そこですら理解されずにすぐ辞めた経緯あり。一般企業ではまだまだなのでは？自宅リモートでデータ入力などであれば1日3時間で週3回くらいは私でも出来る可能性があるのに活かされないのは残念。
色々な障害者に合わせるより、女くて配慮をせよ使える外国人労働者を雇った方が楽と考える会社が多いし
制度だけあっても結局その職場の人間関係が問題で活用できるかが決まる
多様な働き方が浸透したとしても、企業側(雇用主)の考え方が変わらない限りハードルが下がることはないと思う。
都合の悪いやつは雇いたくないと言われたから
働き方が自由になってもハードルは下がらないと思う。受け入れ側の病気に対する価値観や障害との向き合いお互いで何が出来るか、活かせるかディスカッション、コミュニケーションしていく必要があると考える
働き方だけでは厳しい ハードルを下げるには仕事をするためのその人にあつた健常者には必要無い特殊な機材と人員が必要
働く上で、障害者本人の上司同僚などの理解がなければ、働きやすさは変わらないと思う、
病気への理解はない企業が多い。理解してくれる採用担当であっても、同僚に理解されるとは限らない。
法律を守ってない会社が地方には多いので

定義の問題

いくら自由な働き方が認められても疾患患者と健常者での自由の違い。そして、振り幅も違うと思います。
さまざまな職業があり、一概にはいえない。
より自由な働き方が、区別になるのか、差別になるのか、見えない。
より自由な働き方がわからない
自由な働き方が障害者雇用のハードルを下げるとは考えていません。
自由な働き方で雇用のハードルの意味がわからない
自由な働き方と障害者雇用の関連性そのものが低い
自由な働き方の定義が障害者に合致するか未知数のため。
自由な働き方は、自分の意思をはっきり持って、やるべき事ややりたい事がある人はいいと思うが、健常者にはできることができない場合もある難病者に置き換えた時、障害者雇用のハードルが下がるのかはよく分からない。
疾患や個々のスキルによって違いが出てくると思う
障害にも色々あるので、わからない
障害にも様々あり就労できる障害となかなか就労できる状態でない疾患がある為。
障害の程度によって違うと思う
障害の程度によるから。
障害の内容や程度にもよると思う。
職種による
人の考えは十人十色なので分からない。
働き方の自由度と障害者雇用にはそれほど関連性を感じない
働き方の問題ではないと思う
働き方改革と障害者雇用は結びつかないと思うから

当事者側の問題

たとえ自由な働き方が推進されても、社会人経験が多くなかったり、特殊技能をもたない障害者の就労のチャンスは少ないのでは。
どこまでを自由と考えるかによるし、業種にもよる。それは障害者健常者に限ったことではなく、ある程度の決められた枠に自分が合わせられるか合わせられないかの問題だと思う。私は自由に働いていいと言われたら会社に貢献する事よりも自分の欲しい給料分しか働かない。それでは社会貢献にはならないと思う。目先の「自由な働き方」を求める事は多少のきっかけにはなると思うが、障害者を特別扱いする社会ではなく、障害があっても無くても互いに思いやることのできる国を挙げた社会の取り組みや教育が必要だと思う。
ハードルが下がる人もいると思うが、そう言った制度を活用して勤務されていた障害のある同僚が、結局体調がついて行かずに退職したという状況を見たため。
家にも近隣から化学物質が入ってきて暴露するから
私が自由な仕事でありながら無理だった
私は物流倉庫での仕事なので出勤しなければ仕事にならない。体調が優れない時は休養に専念することが大切なので、テレワークができない職種でよかったと思っている。自由な働き方は理想だが、自由になりすぎると休養や生活リズムを守ることが難しくなるかもしれない。そうすると安定して働き続けることへのハードルにもなり得ると思う。
自分の体調では難しい
疾病があるから。
実際のところ、視力障害は難しいところがたくさんあるのだなと疾患に気付いた時に障害者雇用について調べた時に思ったからです。
周りより障害者の心の問題
障害があっても、自分に合った働き方を選択する能力やそのためのスキルがなければ、自由な働き方が浸透しても広がらないと思う。
障害の度合いによって障害者側の能力がピンキリなので、ひとりひとりを個別にサポート出来る人間は存在しない。
障害者自身のADLにもよる
人より疲れやすいので、健常者と同じようには働けないから。

人体に危険な化学物質を国が規制しない限り、毎日苦しくて痛くて拷問のようで、生きているだけで精一杯だから。

当人次第であるところも大きいと思われる

働き方改革と叫ばれていますが、自分の行為で相手からお金おいただく行為をするうえで、こちらの都合で時間や内容を変化させては、労働者の価値を下げてしまいます。わたしは、業務請負や製造業を起業し自身が労働環境を構築する立場になれたらと思います。

社会情勢の問題

コロナ

コロナ禍の影響により、健常者の就労自体が危機的状況であり、障害者雇用であればフレキシブルな働き方も認められるが、通常の雇用で幅が広がるかどうか疑問に思うため。

景気が悪くより労働力のある人が求められてるため。

現実的に難しい

今は仕事を探してる方も多いのでその中で障害者がどれだけ雇用してもらえるかと感じます。

働く機会がコロナ禍で減っている。

日本全体で雇用状況が悪化してるので、その中で障害者雇用のハードルが下がるかといえば、難しいかもしれないと思うから。

その他

ハードルが下がるとしても、ずっと先な気がします。

ぴんとこない

下がるわけではないと感じる

下がる人もいるだろうが、それが全てではない。

自営業だから

障害が、ある事を話してないから、

あなたの「理想の働き方」 自由回答詳細

全体548名中無効回答を除く全回答

20代以下	
“障害があるから”と諦める／受け入れを拒否するのではなく、それぞれが持つスキルや能力・人柄等を最大限に発揮しながら働ける環境を見つけることのできる社会になってほしいです。またそのための障壁となっている制度(例えば就業時の重度訪問介護利用の不可等)は、強く改正を要望します。	就業中
1番は通院のための休みの確保(有給消化なし)と周囲の病気への理解だと思えます。周囲にオープンにするかどうかはとても悩みましたし、今でも体調が悪いことを大っぴらにするのは気が引けますが、自分自身を守るためにも自分がどういう状態で何に気をつけなくてはいけないか伝える必要があるし、それを伝えられる、受け入れてもらえるような職場環境が重要だと思えます。	就業中
いまはなんとか健常者とほぼ変わらない業務をできているが、これから病状が進行しても、柔軟に業務内容を調整しながら勤務を続けられたらいいなどおもっている。	就業中
お互いに得意なことで補い合えるような働き方がしたい。私にできないことは、あなたにやってもらうかわりに、あなたが苦手なことを、わたしがやる、というwin-winな関係を築きたい。いまは、私が周囲に負担をかけるばかりなので、そうじゃなくて、わたしももっと役に立ちたい。	就業中
しんどいときに周りにそのことを伝えられる風通しの良い環境と、自分自身も卑屈にならずに前向きにやれば職種や働き方は関係ないと思う	就業中
とにかく就労中の重度訪問介護の利用を認めて欲しいと思っている。それさえ認められたら、重度障害者が生き生きと働ける社会になると思う	就業中
なんとかか少くらい無理して働かないと、難病患者は障害年金等が受けづらいため、医療費や健康維持費に時間やお金を注ぎ込むばかり。そのうえ体調不良には見えないから、周りからは健常者と同じレベルを求めてられる。難病患者にも、薬だけで普通に生活できる人から、慢性的に症状があって四苦八苦してる人もいて、一概には難しいかもしれないけど、せめてなんとか無理せず働ける在宅業務が増えると嬉しい。できれば自分のペースで、無理せずに。あと易疲労は本当にとても厄介。動けないのに、頭が働かないのに、医師も認めてくれない。治療法と呼べるものもない。	就業中
パートタイマーも正社員として雇用してほしい	就業中
パソコン操作やコミュニケーションが得意でない者として、安心して働き続けるために最も必要なのは理解ある職場、会社の理解と人間関係だと感じています。自分自身は職場に理解していただく努力を、そして職場は難病者に限らず労働者ひとりひとりの思いに耳を傾け、どうしたらみんなにとって良い環境になるか知恵を出し合ってゆく環境が理想です。	就業中
フリーランスでやっていきたい。ダイバーシティのような考え方は地方では限界があり、浸透するのに時間がかかると思う。	就業中
まずナルコレプシーを難病指定して欲しい。そして、難病の人は本当にしんどい時に早退、遅刻含めて休める制度を作ってくれたら無理なく働けると思う。	就業中
寛解と通院を継続しながら、体力的に無理せず働くことです。	就業中
健常者、障害者(持病を持っている方)が共に歩み寄る働き方が理想。一方的に配慮を求めるだけでなく、自分は何を努力しているのか、何ができるのかを伝えていきたい。	就業中
健常者との扱いを同じにする	就業中
健常者と同じ立場に立って業務を行える環境とそれに対する対価の支払い。	就業中
現状の就労支援は、自分でコミュニケーションもスキルもある人は自力で就労出来てしまいます。一方、小児での発症だと教育の機会がなく、社会にそのままです、その人にスキルがないことの責任が帰されてしまったりと理不尽な状況があります。就労そのものだけでなく、教育やスキル獲得の機会も支援すべきだと思っています。理想の働き方は、社会保障もしっかりあり、通院休暇もあり、チームで仕事ができる状況ではないでしょうか。1人で頑張ると、倒れられない状況になってしまいます。関係ないですが、2-7)主たる疾患の発症時からの進行状況について *は、再発と寛解を繰り返すも入れていただけるといいのかなと思いました。	就業中
好きなことを好きな場所です。テレワークが良いと思う障害者が多いが自分みたいに外で働きたい人もいます。	就業中
指定難病ですが、障害者手帳を持っていたら就職も少しは楽なんだろうな…と何度も思いました。難病持ちの就職活動は大変でした。障害者雇用枠の他に難病雇用枠も欲しいです。	就業中
私という人が職場に居てもいいんだ、生きていていいんだと思える働き方がしたいです。	就業中
持病がある人と健常者では明らかに働き方が変わってくるのでそこにもう少し理解が欲しい	就業中
時間に対するお金ではなく、仕事に対するお金のなればいいなと思います。時間内に職場にいて起きていればおしゃべりしても給料を貰える人と、昼寝はとるけどちゃんと仕事をこなせる人だったら絶対後者の方がいいはずなのに、今の日本は前者の方を良しとしています。	就業中
次の世代に託すため、自身が理解のある上長になる	就業中
自宅で毎日、重度訪問介護を利用しながらパソコンで仕事をしたいです。	就業中

自分が貢献している。という気持ちになれる働き方であればどのような形でもいいと思います。	就業中
自分の持病があっても支障にならない分野の専門性を生かして他者に劣らない社会貢献をすること。現在の職場では工場や営業など体力負荷の大きい業務への転換を伴う総合職でなければ出世できない。天井なく、専門性を極めて価値を生み出せれば健常者と変わらずに評価してくれる職場で働きたい。	就業中
自分の体を優先できる仕事	就業中
自分の体調に合わせて自由に働ける環境が整うこと	就業中
自分を隠す、偽ることをしなくても働ける社会や障害を気にしないで働ける社会、そのような社会になることが障害者の理想な働き方につながるのではないかと思う。	就業中
疾患のある人への補償。	就業中
実際同じ能力で難病を持っている人と持っていない人が面接に来た時、たとえその人物が寛解期の場合でもその後のリスクを考えた時に難病を持っていない人を採用すると思います。私が面接官でもそうするでしょう。そう言った時に難病、障害を持っている人も同等の確率で採用されるような社会、何年先になるかわかりませんがそう言った意識福祉的精神を養っていくことも重要だと思います	就業中
周囲への理解度、認知度アップ。自ら病気のことを話せない人もたくさんいると思うので面接の時や面談などの時間を設け上の人と自分の病気について話し合う機会があればいいなと自分は思っています。話し合った上で配慮などしてもらえるとすごく助かります。	就業中
就業先には病気をふせて働いたてます。話してもめんどくさい、大変だろうなという理由です。	就業中
週5で8時間、という働き方がまだスタンダードのように感じるが、今後は週3でも4でも、4時間でも6時間でも色々な組み合わせでその人に合った働き方ができたらいいと思う。健常者でも今のスタンダードは厳しいのに、そこに少しでも障害があったら無理をしてしまうと思う。	就業中
障害が重度化しても、自分らしく、働き続けられること。	就業中
障害や難病を抱える人が、健常者と同様またはそれ以上に働くことに対し意欲的で、実際にも社会で活躍をされているケースはとても多い。そんな方々が、今後より働きやすい世に変わっていく事を心から願います。	就業中
障害を持っていても健常者と同じように収入も同様で社会の一員として配慮も必要になる所があっても企業さんがもっともっと勉強して障害の方を受け入れて頂けたらハンデ(障害)がもっていても働き始める方々が増えると思います！	就業中
障害者の働き口は、力仕事ができる身体でない限り、主にPCを扱えるかが分かれ道になると感じています。その中で自力通勤や介助なしのトイレが可能かなど、更に選択肢は狭められていきます。今の就労環境に不満は全くありませんが…一般的とは違う形であっても、憧れる・楽しいと思える職業に就けるといいなという気持ちは常にあります。「仕事」というものは人生の半分以上を占める部分なので、もっと色々な選択ができる世の中になってほしいです。	就業中
正當に評価するために、合理的配慮はしっかり施す、という形が理想だと思います。障害でできないことを気にせず、得意な部分を生かしてスキルアップしていきたいです。	就業中
体調に合わせて、働ける時はしっかり働き、少しでも体調不安があれば気兼ねなく休めるような、柔軟な働き方が理想です。	就業中
体調に合わせて勤務時間、勤務内容を1日単位で対応できること	就業中
体調に合わせて働けるときは働き、休みたいときは期間を決めてしっかり休養をとりたい。	就業中
誰しもが疾患において働ける時間、環境、に左右されることなく自らの意思により職を選ぶことが出来る社会	就業中
働けていればいいと思う。	就業中
難病に理解のある会社や社会作りをしていければと思う	就業中
難病患者だけ身体の調子に合わせて働ける社会になるのではなく、健常者も本人の特性や事情に合わせて働ける社会になってほしい。障害者や難病患者だけは体調に合わせて仕事ができるが、健常者は無理をして働かなくてはならないという状況は分断を生むし、体調悪化から診断がつくまでの間の患者に対する視線がとて厳しいものになるため。	就業中
難病者を支援する企業に将来就職したいです。	就業中
入院していても時間に縛られず、たくさん業務ができればいいなと思います	就業中
病気があることによって働きづらくなることなく、キャリアアップやスキルアップを目指せる働き方を望む	就業中
病気を持っていても、生活に多少の余裕を持てる収入が得られるような仕事がしたい	就業中
偏見のない職場で病気や障害にむやみやたらに踏み込まれず誤解なく働きたいです。	就業中
保育士はデスクワークではなく常に動く体力仕事。疲れることに不安を感じてしまうが、休みたくても子どもの安全を責任もって見守らなきゃならない。自分の体のことと仕事内容にギャップを感じてしまうことがある。だから理想な働き方は休めるときに休みたいのがいちばん。けど、なかなか職種の厳しさを感じている。	就業中
法定時間内で、働けること。	就業中

理解をしてくれと押し付けになっても良くはない。互いにどのくらい働けて、そういった場合はどのような評価になるかを明確にしておけば互いの納得の上働けるのではないかと思う	就業中
テレワークをしつつも、現地の職場にいる社員も、わたしを社員の1人として認識してもらえるような、場所の違いを感じないような、社員と一緒にいたらいているという実感ができる働き方をしたい	求職中
家である程度自分のペースでできる	求職中
今のように選ばれた障害者しか輝けない社会ではなく、誰もが生き方を選択できる社会。OriHimeも選ばれたキラキラ障害者しか使えないし、用途も限局的で今はユーザーがOriHimeに合わせている状態。汎用性が無いと本当に困っている人達には届かないし、本当に困っている人達はオリイ研究所には選ばれないので、ごく一部の仲間内で盛り上がっているだけで、本当に困っている人達には希望になるどころか、そのせいで余計に孤独に苦しんだり、精神的に参って死のうとしている。京都の囑託殺人の林さんもOriHimeのことは知っていたのに、安楽死を選んだし、今のままでは孤独の解消どころか、孤独を深めるだけ。選ばれたキラキラ障害者だけではなく、必要な人に必要な支援を届けられる制度を作って、選ばれるのではなく、選べる社会にしたい。	求職中
在宅で自分にできることをする	求職中
指定難病受給者は障害者雇用の枠にも入れてほしい	求職中
治療と両立しながら無理なく働くこと	求職中
自分の体調に合わせて、時間を自由に決めて働きたい。	求職中
実家は長野県の田舎ですが、客先常駐や組み込みソフトの開発経験が長く、地元に戻って活かせるような業務経験ではありません…テレワークの推進や働く場所の自由が上げれば、地元にいながら仕事ができるようになるため、東京などの高い物価に悩むことなく生活出来るのではと考えます	求職中
収入は多少減ってもいいので休みやすく、ストレスないように	求職中
就業時間を自由にし、メールなどの連絡方法の多様化などで病院に行けたり、身体を休めたりすること。オフィスが無ければ可能だが、フリーは稼ぎが少なく多忙すぎる。社会保障の網目をぬけてしまうからフリーで働くことも難しい。掛け持ちで生きるにも、仕事と病院だけの人生になる。	求職中
障がい者枠・一般枠に関わらず、働き方を相談しながら決められること	求職中
障害を理由に長年の夢を諦めたので、障害を持っていても自分のつきたい仕事につけるようになってほしい。	求職中
身体に負担をかけず、残された能力を発揮できる仕事が多くあればいいと思う。(障害者雇用での求人が少なすぎる)田舎でも、テレワークを取り入れる企業が多くなればいいと思う。	求職中
水曜日と土日祝は休みで、完全リモートワークで、一日の労働時間の制約はなく、業務が発生したら時間に関係なく着手でき、ヘルパーさんに介助されながら気兼ねなく働ける環境を望む。それで年金足して手取り30万円あれば親元を離れて自立した生活を送れる。	求職中
体を壊さない(病気を悪化させない)よう、休みやすい職場で6時間程度の勤務で週4で働きたい。	求職中
動ける時が少なくなってきたので時間や場所に囚われない働き方をしたいです	求職中
病気や障害を持つことを恥じたり悲しんだりすることなく働けて、差別や批判なく障害者や難病患者ではなく1人の人として楽しく働けるようになりたい。また、能力に対して賃金がしっかりと貰える世の中になって欲しい。	求職中
病気を隠さずに就職活動ができるようになり、就職してからも、限定的でいいので特定の疾患のための通院には、有給消化をせずすむ制度があればいいなと思います。	求職中
病気持ちでもみんなと同じように働ける環境がいい。	求職中
本人の体調管理能力がまず第一だとは思いますが、病気への理解と支援がより深くなれば、継続就労への道も近づくのではないかなと感じます。	求職中
テレワークの出来高制が理想です。職場に長くいると体に負担がかかるから事務作業だけでも家に持ち帰りたい。体調崩して何日も休んでしまった時とても申し訳ないし、周りの冷やかな目が怖いから休みやすい環境が欲しいから。でも体調崩しすぎたら収入が絶たれるという心配もある。	未経験・休職中
やりたい仕事に対して、自身の病気を引け目に感じずに働ける環境	未経験・休職中
休みが固定で日勤の仕事が理想。福祉関係の仕事はシフト制だ。でも、この業界なら持病さえも自分の強みとして活かすことができる。周りの理解さえ得ることができれば働きやすい環境だと思う。	未経験・休職中

私はまだ就活もしていない大学生です。ですので今は仕事をするに対してあまり知識や経験もないのですが、所属学部は専門性が高く、将来的にはそれに関連した専門職などに就くことを考えています。そうなったとき、病気のことはそれはそれとして、きちんとスキルや知識、自分の持っているもので判断していただきたいと思っています。ライフワークバランスをとろうと言うのは簡単ですが、病気がない人でもそれを上手くつくることは難しいと聞いています。疾患を抱えた方が生きやすい社会は、健常者も生きやすいと考えます。週5日8時間勤務に捉われず、だからといって時給が安いわけでもなく、きちんと自立した生活が送れるように働けること、そのための社会保障、意識改革、法改正などを望んでいます。	未経験・休職中
時間や仕事を調節できる	未経験・休職中
自分のペースで自分ができる仕事をリモートワークでできること。	未経験・休職中
少しでも体調が悪い時は、誰もが必ず休むことができる環境があること。	未経験・休職中
体調が悪い時は無理せずに休める環境があること。	未経験・休職中
田舎で、交通機関が充実していないため車椅子での外出が困難なため、テレワークで仕事が出来れば嬉しい。また、勤務時間や勤務日数は体調に応じて変えられるとありがたいです。	未経験・休職中
働きたい時だけ働けて働くことでの負担のかからないこと	未経験・休職中
働き方はどんな形であれ障害があっても社会参加できる事で人の役に立っていると実感でき、自己肯定感を高める事ができれば良いと思います。	未経験・休職中
病気に対する偏見のない社会で、普通に働けること	未経験・休職中

30代	
ジョブ型雇用の導入、仕事する時間帯での介護者の利用	就業中
その日の体調によって、就労時間を調整出来ること	就業中
それなりに守れた所得と、希望を持って働ける環境	就業中
テレワークで業務時間帯などを自分で自由に調節して働ける働き方。	就業中
テレワークで勤務できれば体調も安定するし、通勤時の負担も軽減される。コロナでテレワークを経験して体に負担をかけず仕事できたのが非常に良かった。杖歩行や車椅子生活の人には通勤はストレスであるので、自宅で勤務できる事は有難い。	就業中
テレワークを礼賛する時代にはなってきたが、どうしてもそれがかなわない職業がある事も承知しているので、ひとつの仕事に対してどこでそれをするか、当たり前のように選択肢が存在できると良い。わざわざ全員に理解してもらおうとは思わないけど、こういう人がいるという事をせめて認識してくれば。	就業中
もっとよくできると思うけれど、無駄なルールが多いと思う。当事者の声が届いてないと感じる。	就業中
もともとの就業時間が短かったり、テレワークが進んだりすれば、通院も楽だし、余暇が増えてリフレッシュ出来る時間が増えるのでそうなったら難病患者や障害者だけでなく働く人みんなが助かると思う	就業中
やりたいこと、好きなことを仕事にしたい	就業中
育児や介護と同じように、障害や病気を持った人が権利を職場で発揮できると良いと思う。通院休暇など。ダイバーシティという言葉も中小企業だと障害者雇用まで視野に入れず、女性の管理者増や育児との両立に力を入れている印象。	就業中
一度障害者向けの面接会に行ったが、どこに行っても、障害者手帳有無を聞いてくる、ないと駄目なのか、どこも落ちた。やはり法を変えて障害者手帳に変わる何かを持つしか方法働いてきたがないのではないかと思います。	就業中
家でテレワークできる仕事に就く	就業中
急に深刻な疾患を発症することがあるので、誰もが何時も患者になりうる可能性をがあると認識した上で、柔軟で多様な労働形態が可能な職場が望ましい。また意識改革はお金がかからず、強制性がない変革のもたらし方だが、あまりにも時間がかかり非効率的。制度で社会を変えるべき。	就業中
教育の段階でもっと自由に子供たちを生かせるべき	就業中
健康上の理由で、仕事を変える必要はない。働き方を変えればいい。1人では実現できないし、たくさんの方の工夫が必要だけど、必ず出来ると思う。	就業中
元気に毎日を普通に過ごせる事を祈ってます。	就業中
現在の職場は、通院に必要な休みを取得するのに制度的にも雰囲気的にも何のハードルもありません。まずはここを社会全体で確保すること。なぜ他の事業主にこれができないのかと思います。難病だけでなく、50代をすぎればがんになる人もたくさんいるでしょう。そうした人たちを戦力外にしないため、通院機会の確保はマストだと思います。	就業中
現在脳脊髄液減少症による起立時の慢性的な頭痛、遅発性内リンパ水腫による片耳難聴及びめまいに罹患しています。病気があるため仕事を休みがちですが、陰口を叩かれていると感じており、不安を感じる日々を過ごしています。その中で何かあった時に寄り添ってくれる妻にはとても感謝しています。病気である今、誰かの支えがないと生活ができる自信がありません。完治する根本的な治療法がないのであれば、国による更なる支援の拡大を希望します。	就業中

雇用保険に入ることが出来なくても職業訓練が行えるように助成金が出て、在宅ワークができるようなスキルを身に付ける事が出来る仕組みを作って欲しい。また、難病支援センターからもそういった紹介、案内が積極的にあって欲しかった。在宅ワークを基本にしながらも地域のサロンなどにもつながっていく、社会的孤立も無くなっていく。そういった働き方をしたい。	就業中
今はまだ車椅子を使用していないが、今後車椅子を使用することになった場合、今の働き方を継続するか不安である。そういった様々な不安を考えずに継続して働ける安心感がある状態が理想の労働環境です。	就業中
再発しても辞めずに済み、できればノコギリ曲線で再発の度にゼロ評価リセットではなくて階段曲線で足踏みはしても評価の積み上げを引き続けるとよい。明らかに評価が低いままとするとモチベーションもわからないし転職もできないので、低い生産性そのまま会社にしがみつ়くことになる。	就業中
在宅勤務や、介助者を公費で払って頂ける制度。介助者が入れられたらまだまだ働けたが、会社が費用を負担してくれる訳でもなく、社内業務に関しては他スタッフからのフォローが受けられるが、トイレの介助を介助者をお願いしたかったが、独立行政法人高齢障害者雇用支援機構からトイレ介助のみの助成は業務外となる為助成金は降りないだろうと言われ、仕事を続ける事を断念した。社内業務での介助者介入は、会社側が機密情報保持の観点から難しかった。	就業中
私は、一見見ただけでは健常者と変わりありません。だから、今までフルタイムで働いてきました。今、転職して思うことは、有給休暇が入社してすぐに使える環境になれば、もっと働きやすいです。	就業中
私自身が個人的に思うところですが、難病等の理由により雇用されているとなかなか出勤できなかったり通院ができなかったりと不自由な面が多いと思いますが、副業などテレワーク等うまく取り入れて、個人的スキルを生かした仕事がうまくできるシステムがあれば、雇われるだけではなく個人事業主としても自由度を発揮して働くことができると思います。	就業中
自分が働ける時間に働いて、それに対して評価がお給料に反映される。フリーランスのような働き方がベスト。でも社会保険には入りたいです。	就業中
自分のその時の体調に合わせて、柔軟に勤務体制を選べるような働き方	就業中
社会的にも身体的にも拘束が少なく、自由度の高い働き方が増えて欲しいです。障害者や難病者に関わらず、体調の悪い人、家庭に事情がある人などに優しく、日本的な根性論のない職場が望ましいです。	就業中
周りの人の理解があつてこそ、安心して働くことができる。難病や持病を隠すのではなく、自分の状態について、職場の人に開示して働けたらいいと思う。そして、難病や持病があつてもなくても、誰もが働きやすい環境になればいいと思う。	就業中
周囲や職場、そして家族から病気の理解が得られ、自分の病気ともしっかり向き合っておざなりには決してせずに、在宅勤務などで柔軟に間口の広い働き方が広まればいいと思います。健康な方はなかなか病気への理解について考えることもないかもしれませんが、それが社会で当たり前のこととして浸透していけばいいと感じます。会社第一ではなく、従業員の人生、体、ライフスタイルなどを重視した上で勤務し貢献する、という一人の人間を尊重していける社会が理想です。	就業中
週3勤務で年収350万欲しい。老後に備えて貯金がしたい。	就業中
週40時間程度の仕事を任意の時間、任意の場所で仕事が出来きる環境があるやりがいのある仕事	就業中
少額の儲け口を複数用意する働き方。本来の意味での百姓のような働き方。	就業中
障害者の賃金アップ。	就業中
障害者や持病を持った人でも、その人達の特性にそれぞれ合った仕事やポジションに就けている。	就業中
選択の余地が広がるのが大切	就業中
全ての働きたい患者を受け入れていただけたら幸いです。	就業中
体になるべく負担のかからない働き方が理想ですが具体的に回答できません。ふと思いつくのは週休3日制であれば嬉しいです。	就業中
体は辛い働くことは好きだ。しかし、本当に辛いときなかなか休めないこと一番つらく、休んだあとも謝罪して回るのが辛い。	就業中
体調が悪くない時はオフィスワーク、体調が優れない時は在宅ワーク、時短勤務	就業中
体調が良い時に集中して働き、ダメな時はきちんと休みを申請できてる働き方。	就業中
体調に合わせた働き方	就業中
体調に合わせて働きつつ収入面で心配しなくていい環境	就業中
昼寝することが可能で、通院が気兼ねなくできる。	就業中
痛みの増減に合わせたフレキシブルな勤務	就業中
定時であがれる、残業代が出る、有給を好きなきに使える、マニュアルが整っている、専門のスキルのみを活かし雑務をさせない、人間関係で悩まない職場で働くこと。	就業中
働き方はそれぞれであるべきだし、個人に合った働き方をすべきだと思います	就業中

難病という理由で落とすことはできないと聞か、病気があるから採用されないということは絶対にあると思う。ただでさえ安倍さんが病状悪化で職を辞しているの、同じ病気なら安倍さんみたく途中で辞めるんでしょという空気があるけど、病気を開示して理解ある会社で長く働きたい。人間関係のストレスも病気の増悪に影響してくるので穏やかに日々を過ごしたい。難病だから就職活動が難しいとか悩む日々がなくなれば良いと思う。	就業中
難病も症状が1人1人違う事を理解してもらい、その人に合った役割を与えてもらえる事が理想。	就業中
難病者雇用枠や難病者手帳発行による就業規則ができ、正社員雇用を継続できるよう、以前とかわらぬ収入があればいい。障害者雇用があるように難病者雇用で支援してほしい。	就業中
日々の業務を遂行するのに必死で考えた事はありません。	就業中
日本全体の睡眠時間を増やし、闇超勤を撲滅する	就業中
病気があっても、人並みに生活できる収入	就業中
病気により出来ること、できないこと、配慮して欲しい事を踏まえて、無理のない働き方ができる仕事が増えればと思っています。慢性疲労症候群患者なので、在宅勤務や、職場でも休める風土や場所が欲しいです。今後、クラウドマッチングのような斡旋サービスが出来上がり、疾患を持つ方の能力、出来ることや制限を含めて登録し、それに応えてくれる会社が出てくると良いなと思います。	就業中
病気に左右される事なく働くこと。やはり、急に症状が現れたり入院したりすると、人に自分の仕事を任せてしまう事がストレスになります。そうならない為にも、早く効果がある薬ができればと思っています。もし入院したりしても、テレワークで病室で仕事ができるのが理想です。	就業中
病気の症状を抱えながらも働いただけにとどまらずスキルアップも目指せるような働き方ができたら嬉しい。	就業中
病状が辛い時は、気兼ねなく休める職場環境が欲しい	就業中
複業と本業の配分が自由になり、それぞれが相乗効果を出せるようになると思います。だから障害者をとりあえず雇って人事や総務の端っこの席にとりあえずいてもらいたいのはなくしていききたいですね。	就業中
平等にするため休日数や有給数、勤務時間など、一般就労の方と同じでなければいけないとは思いますが、どうしても急に体調崩したりして休むことが多いので、障害者雇用の人に対する特別休みがあるとありがたい。時短勤務も育児中の方だけでなく誰でも使えるとありがたい。	就業中
理想は結婚してアルバイト程度の収入があれば良い	就業中
勤務時間中もヘルパー派遣を認めてくれるとできることの幅が増える。	求職中
在宅勤務で体調に合わせた働か方が出来ることが理想です。	求職中
障害者枠と言いながら身体障害者が優遇されている現状があり、精神障害者を拒否して居ると思います。履歴書を送ったが一切見た形跡が無く定型文で名前だけ足したような不採用通知が届く事が多いです。このようなシステムだと精神障害者はクローズ就労で病気を隠した結果、病気の再発や悪化を繰り返す事になると思います。筋筋膜性疼痛症候群や線維筋痛症は、グレーゾーンの為、身体の手帳が貰えず、本来痛みから、うつ病になったのに、うつ病が主たるメインの病気として手帳を取得するしか方法が無い状態身体障害者手帳が取得出来る世の中になって欲しいと思っています。疼痛薬は3割なので薬代が堪えます。	求職中
多少苦しいが、スキルアップステップアップができていくという実感ができる働きかた。	求職中
体力面を考慮した日数・時間・仕事量で、能力に適した仕事内容。	求職中
働きたい人が納涼を最大限に発揮出来る働き方。	求職中
得意なことを生かすことができ、障害や疾患を含めて互いを認め合うことができると思う。できないことはできないけれどその分できることはやる、カバーし合うことができる環境で働くことができれば、自信や生きる希望に繋がるように思う。	求職中
特例子会社が多くなれば良い	求職中
難病への理解のある環境、週1~でも働ける、体調の波に合わせて横になれる環境(ベッドなど)がある、通勤・テレワークを組み合わせられる	求職中
難病もちでも人として必要とされる世の中になってほしいです	求職中
発症前のように人と接しながら働きたいが、現状在宅勤務を勧めてくる人が多い。病気の状況から週2,3、半日が医師からベストと言われてるが、パート・アルバイト区分になってしまう。諦めるものが多い働き方でない方法を見つけていきたい。	求職中
必要とされたい	求職中
(発症日の欄ですが、発症は不明という医師の見解だったため0~26歳という意味です。)理想の働き方は、はじめに持病を公にしやすい環境、弱みは工夫でリカバーしたらいいという考えの雇用主の元で、強みを生かし、誰もが当事者意識で支え合う働き方です。	未経験・休職中
あまり出歩けないので、寛解までは自宅でできる仕事をしたいが、いまはパソコンも買えない状態になり、色々厳しい。	未経験・休職中
オフィスワークの場合、全社員が同じ時間に同じ場所で働く必要はないはず。テレワークや時差勤務を恒常的に実施してほしいです。また、勤務時間の合計ではなく、こなした作業の量や難易度で評価してもらえるようになったら嬉しいです。	未経験・休職中

クローン病なので、自由にトイレに行ける。平日の休みをとりやすく、通院にいやすい。子供がいるが、急な体調不良で休んでもお互い様と快く休ませてもらえる。休憩時間や勤務時間を自分の体調などで変えられる。	未経験・休職中
こまめな休憩ができ、体に負担の少ない時間配分が出来る働き方。	未経験・休職中
テレワークで仕事をしながら、疾病の治療を続けることで、いつかはパートタイムで仕事出来るようになり、正社員への登用もあり得るような働き方	未経験・休職中
プログラマーとしての経験を活かして、テレワークでプログラミングやデータサーバ管理など。他に仕事が出来れば、データ入力といった簡単なパソコン作業でも可。	未経験・休職中
マイカー通勤出来て、週に2,3回働け、テレワーク可能ならさらに家でも働けたらと思います。職場が「体調を悪化する環境、ではないことが必須条件。なかなかどう探せば良いのかわからない。あと、重症化リスクのため、コロナ陽性者と同じ空間で働かない環境を選べる社会になっていくのか心配しています。(コロナに限らずどんな感染症でも罹患＝離職に繋がってしまうので避けたいことを理解して貰いたい)	未経験・休職中
もう諦めている	未経験・休職中
わたしは線維筋痛症です。痛みが強い時は起き上がる事すら難しく、仕事へ行くのも難しいです。そうした状態にある人はテレワークにするなどの配慮が得られたら嬉しいです。また、受診のためには平日休みが必要です。有休などを使わせてもらえたらありがたいです。	未経験・休職中
在宅勤務で通勤は全く無し、体調によって時短勤務が出来る。	未経験・休職中
仕事でも休める環境づくり。	未経験・休職中
私の体と心を理解してくれ、やりたい仕事ができること。	未経験・休職中
時間が短くても普通に働けること	未経験・休職中
時間や日にちが決められていなかったり短時間や在宅など様々な働き方があれば、今の自分の身体でも働ける可能性が探れるのではないかと思う。ぜひ働きたい。	未経験・休職中
自宅で出来る時に出来るだけの仕事ができたらいいなと思います。出来高制でも働けるなら有難いです。ただ体調的には難しいので、会社に勤めることができなくても、本を出版したり、病気の経験から人助けができる仕事ができたらいいなと思います。	未経験・休職中
自宅で同僚と気軽にコミュニケーションを取りながら、オフィスにいるのと同じように勤務に取り組めること。また、あまり急ぐ雰囲気の仕事が回らないこと。	未経験・休職中
自分の休みたい時間・日にちに休めて、体調により勤務時間も自由に増やしたり減らしたり出来る働き方が理想です。	未経験・休職中
自分の出来る範囲内の内容で頑張りたい	未経験・休職中
疾患への正しい理解をしてもらい、就職に対して不利なことが多少軽減され、希望の仕事の担当を任せたい。	未経験・休職中
社会の一員として居心地よく自由に楽しくやりたいことをやって社会貢献がしたいです。その為には病気による医療助成金や安心して再就職や療養できる環境を整えてほしい。障害年金や傷病手当生活保護とにかく体調が辛いのに手続きやハードルが高すぎる…医師や職場ともめたりしてストレスにより余計に病状が悪化したうえに貧困に陥る人が自分を含め多いです。グレーゾーンの人が社会復帰できる確率も高いのにそこで保障もなく重症化へ陥ってってしまうのはもったいないとおまいます。	未経験・休職中
就業時からきちんと病気のことを申告して理解してもらえたら、無理や我慢の末に退職して迷惑をかけることもなかったと思っています。雇用側に難病者を採用するメリットが今よりもっと与えられ(優遇、助成金等)、病気を隠さず堂々と仕事への応募ができるようになること、働き方について理解を求められるようになることが理想です。	未経験・休職中
週に4日勤務、1日4時間程度 土日祝日休み	未経験・休職中
障害年金を受給しながら、在宅で自営業	未経験・休職中
上記にも記載した通り、難病持ちだから(低収入、遣り甲斐がなくてもお金が必要)仕方がない、という働き方では誰も救われないと考えます。今、私が全期待を寄せているのが分身ロボットのOriHime事業による、新たな働き方です。「誰かの役に立ちたい」という気持ちは、難病を抱えている方には強いと思います。そこを救い上げてくださるのがOriHimeによる、働き方です。既に大手企業にも導入されているため、このような遣り甲斐をもって、人生を明るく、いきいきと、希望をもって生きられる。その為の一部として、このような「仕事」がある形を切に望みます。アンケートを作ってくださいありがとうございました。集計など大変かと思いますが、どうか宜しくお願い致します。	未経験・休職中
寝たきりで生活は全介助なので、病気や難病、障害をもった方の相談業務をしたい。	未経験・休職中
先日ロボットを使って遠隔操作で寝たきりで外に出れない方がカフェで働けるというニュースを見ました。すごく画期的で毎日に希望が持てる仕事だと思います。コンピューターを使った仕事が増えたり、このコロナ禍によってある程度テレワークできる職種や残業の必要性が浮き出てきたかと思うので、これをきっかけに外に出れない人もテレワークでできる仕事が増えて欲しい。そうすると通勤のための介助支援の負担も減り、テレワーク事業を障害者向けに斡旋なんかできたらいいなあなどと思います。	未経験・休職中

体をケアしながら安定して働くことが、悪化の防止にもなる。通院するのに後ろ指刺されない企業で働きたい	未経験・休職中
短時間の事務仕事がしたいが、短時間の仕事は大体パート等体力の必要な仕事なので無理なのが歯痒いです。	未経験・休職中
調子のいいときだけ、繰り返し作業的なものを取り入れる。自宅か、近辺でそういう人の集まりの中、マイペースでできる形。	未経験・休職中
働く意欲はあるが、病状の為にどのように働けるか分からないでいる。	未経験・休職中
働ける時に働く。無理をしない体制。	未経験・休職中
難病になった途端同僚から恨まれ、上司から精神病扱いされ、LINEに中傷メッセージを送られたりして、やむなく退職へと追い込まれました。病院勤務なのに、難病への理解がないことに絶望しました。軽症なので医療費助成も受けられないと主治医から言い渡され、これからどうやって生きていけばいいのかわかりません。	未経験・休職中
日内変動があるため、調子の悪い時に休めて、良い時には集中的に働ける仕組みがあると良い。更にはそれが当たり前になっていると心的な罪悪感や負担感がなく成果に繋げるために働けると思う。	未経験・休職中
発症前に働いていた、オンラインマッチングでのベビーシッターが子育て中で就業時間に制限のある中で、とても働きやすかったです。発症してしまった今となっては、体力仕事、命を預かるベビーシッターはできないなと思っていますが、個人間のマッチングシステムにより、フレキシブルに働ける方法が他にもあるなと思っています。	未経験・休職中
病気だからと諦めずに、疾患と付き合っていくながら働きたい。世話になるばかりでなく人の役に立ちたい。	未経験・休職中
病気に関して理解のある、柔軟な対応ができる会社。	未経験・休職中
毎日短時間 在宅ワーク	未経験・休職中
理想は自宅です。精神疾患で人と会うのが怖い。外に出るならば障害者専用の休憩スペース(仮眠室のような横になれるスペース)に気兼ねなく休息を取りに行ける環境がほしい。テレワークで可能なものは自宅で行いたい	未経験・休職中

40代	
ありがたいことに、今の職場はやっと理想に近い形で仕事できています。一番に職場の皆さんの理解と配慮が大きいです。	就業中
コロナ禍により一気に近づいた。元々テレワーク主体だったが、それが当たり前としてくれたことは助かった。ただ「最終的に会えない」というデメリットは残る為、そこを更にもう一步「まるでそこにいる感」を当たり前な世の中の技術として貰えれば、身体障害の人間にとっては差が無くなるのではと考える。(難病のなかでも限定的な話ですみません)	就業中
ストレス少なく働ける職場になってほしいです。	就業中
その人その人ができることを頑張ることで、給金と自信を得られる働き方。	就業中
テレワークで時短勤務でも正社員になれると良いと思います。	就業中
テレワークで働きたい	就業中
どうしても病気もちや障害者は低賃金の職業しか選択肢がなくなってくると思います。	就業中
ねてくらしたいです。	就業中
ベーシックインカムにより生活の不安なく好きなことだけを死ぬほどやりたい	就業中
もう少し障害状態が改善もしくは上手に付き合えるようになり、会社に貢献できていると思えるような働き方ができること。	就業中
一般企業並の業務がしたい	就業中
学生のうちに、障害者や難病者と接点を持ち、知らず知らずのうちに困難さの理解(想像力)が高まる環境+テクノロジーによって、新しい働き方が創出されていくと思う。	就業中
看護師は健康でなければ、多忙の中で他の職員に負担がかかることで差別や無視をされたり、障害があっても働けると言っていた自由な職場を売り込んでいる場所も受け入れることは難しいと断られたり、公で話すことと内側で行っている事には差がある。障害が有る無しに関わらず、得意不得意や個のちからを活かしあい、凹凸をお互いが埋め合うような社会になれば、もっと働きやすくなると思う。	就業中
規則は健常者のためにあって、障害や疾患のある人のために作られてる割合は少ないと思う。道徳観、倫理観を義務教育にもっと取り入れて症状をまわりに伝えやすい環境を作りたいし改善策が見つけようとする柔軟さがほしい。	就業中
勤務時間・場所等が症状に応じて選択でき、任期がなく、長く務めることが可能な環境があればいいと思います。	就業中
勤務時間の柔軟性	就業中
金融機関は、在宅勤務の部署がとても少ない。もっと大胆に勤務の仕方を柔軟にしていく時代にきているとおもう。	就業中

健常者、障害者、難病者の関係なく、個々に雇用契約を結ぶ。雇用する側も、される側も変化を受け入れること。	就業中
健常者と同じ扱いであればいいと思います。	就業中
見た目なんでも無いと疾患などがわからず、出来ないことでもやらないといけないことなどがあり、理解を得るには本当に難しいといつも痛感しています。	就業中
現在、とても良い環境で働けてます。が、法的にも社会的にも理解が必要。なぜ動けなくなるか、など、症状の理解。建設業に居たせいか、気合でなんとかやってきましたが、今後、更に動けなくなると思うと、不安しかありません。20代と40代では、同じ疾患でもかなり違います。50代位上の高齢者(50代は健常者からは高齢者に当たらないかと思いますが)になってからの体内の変化。国の補償や社会(会社)のあり方など。健常者の方は、怪我や病気を患った時、同情するな！とか、差別、特別扱いするな！などと思われる方が大半かと思いますが、自分らは、先天性で生まれながらに色々大変でしたので、もっと同情し、気を使えと思ってしまいます。完全には、分かり合えない仕方なさ、この先も自分との闘いと社会への闘いですな。	就業中
現在の「当たり前」に囚われない発想で、社会も当事者も行動すれば色々なチャンスが生まれると思います。	就業中
言い方は悪いが、周りの人を気にせず、体調の変化に素直になり、休みたい時に休める働き方が理想です。現在しているテレワークもかなり理想に近いです。テレワークの環境ならば身体障害によって周りの人とのコミュニケーション等の影響を考えずに済む場面が多いので、ストレスが軽減されます。	就業中
好きなだけ。病気が悪化するかも…と考えず働くこと。	就業中
今が理想に近いです。収入が上がってゆくようにがんばりたい。	就業中
今は自宅を私塾として使っているが、利用する子それぞれにより合った環境で学習してもらいたい。	就業中
困ったことが起きるのほどこでも誰でも一緒。ひとりで抱え込まず、周りもそれをスルーせず、みんなで話し合いながら改善できるチームだと働きやすい。	就業中
子育てをしながら、ヘルパーと保育園に迎えに行くことができ、そのまま空いた時間には在宅勤務もできるようになること	就業中
私はフルタイムで大手の企業にいるため、福利厚生面で恵まれてはいますが、テレワークのできる部署の開発がなかなか進まず、コロナ渦でずっと在宅待機命令です。結局病気があるため、キャリアアップの対象として見てもらえず、働かせてもらえてるんだからありがたいと思えという風潮があります。それでも日々感謝を忘れずに、病気の事も全て伝えて、ここで出来ることをと思っていますが、やはり虚しさはあります。また、私の周りの難病患者のほとんどのの方が、障害者雇用枠に入らないため、病気をクローズにして就職し、結局無理をし長く勤められない方が多いです。	就業中
私は難病を抱えてますが、精神障害を抱える部下を持ったことがあります。結局、いろいろ上手くいわずに部下は辞職しましたが、お互い大変苦労しました。その時に強く思ったのは、障害者の上役や同僚にも対応の仕方などを気軽に相談できる場があれば良いということです。部下にはカウンセラーがついてましたが、私は相談できる場がなく、本当に辛かったです。	就業中
持ち場を与え責任のあるポジションをつくり出す。	就業中
時間的な自由度があり、結果に応じた報酬で働けること	就業中
時短勤務	就業中
治療にかかる費用のために無理しても働かなければならないこともあり、今後について大きな不安となっている。安心して治療を続けながら、社会の中での役割も果たしていると感じられるような仕事ができたらと思う。	就業中
自営の方が自由がききそう	就業中
自身の意志で自由な時間に働ける	就業中
自宅で自分の学習支援教室を開くこと	就業中
自分の能力を活かしていきいき働ける働き方	就業中
疾患とともに自己実現を図ることができるよう、キャリアのシフトチェンジを柔軟にできる状態	就業中
疾病への相互理解と意識改革	就業中
疾病や障害のあるなしに拘らず、お互い様の関係でピアサポートできる働き方。	就業中
疾病有無に関わらず、共生ができる環境	就業中
出来ることはきっちりやるので、バカにしたり、見下してはまずなどゆ	就業中
障害があっても負い目を感じる事の無いように、周囲の理解が少しでも広まればと思います。また、企業としても、難病などの疾患がある人サポートをするような姿勢が出てきて欲しいです。講演会を会社で開催してくれたり。健常者の方達にも勉強会などを開催。当事者との意見交換などしてほしいです	就業中
障害や難病の有無に関わらず、誰もが社会に貢献し認められ、同じ人間として社会の一員(仲間)であり、社会に自分の居場所があると思えるようになって欲しいと切に願います。	就業中
障害を持っていても気にする事なく働ける事	就業中

障害を忘れて仕事に没頭できる時間が今後も続いてほしい	就業中
障害者雇用率の引き上げなど、昔に比べれば随分変わってきたと感じます。しかし、現場は障害者や難病者に接したことがなく不慣れな場合もあり、十分に支援が行き届いているかと言われると疑問です。そのために、いろいろな制度があり素地はある程度できていると感じています。当事者自身もこうした制度を知ったり、合理的配慮提供を周囲に求め交渉する力が必要と感じます。	就業中
場所や時間を問わず働けて、年齢、見かけや経歴、健康状態に関わらない、本当の意味での人間性や姿勢が評価される社会がつくれること	就業中
職業の選択肢が増え社会と繋がりから自己肯定感や充足感を味える働き方が理想的です	就業中
職場に迷惑をかけず、自分自身もやりがいのある仕事ができていること(そもそも難病になったことで夢が潰えたので、仕事に対してカネさえ貰えれば多くは望まない)	就業中
心理的安全性の高いチームを作り、その中でそれぞれが適材適所で、無理なく、自分の強みを生かして働けること。そこに自然と入っていれば(居場所&仕事がある)嬉しいです。	就業中
人から必要とされている、世の中から置いてけぼりではなく、あなたは必要とされている、が全面に出られれば、もっと難病者でも就労についてチャンスはあると思います。あとは患者自身も、例えば寝たきりでもTwitterなどで文章が打てるのならばライターとして働く機会はあると思います。	就業中
人それぞれだと思うので、お互いの生き方を尊重していきたいです。また、雇用者の立場に立ってみれば、やはり自分の給与に見合った働きはしてもらわないと困るでしょう。雇用者にお情けで養ってもらいたいなんて人は採用したくないでしょう。病気の身で一体どうやれば会社に貢献できるのか？売りに上げに繋がれるのか？そのためにはどんなサポートが必要なのか？などを理論立てて考えて、積極的に提案していく、魅力ある人材になろうとしていくことが大切だと思います。その前向きな姿勢を作るのはやはり本人の努力だけでは絶対に無理で(努力でどうにもならないのが病気なのですから)、社会が受け入れてゆく意識・制度が必要と考えます。	就業中
正社員(常勤職員)でないとキャリアや昇進の機会、勉強する機会も与えられない。正社員として、働きたいが、体調や子育て中に長時間通勤労働は難しい。やる気や向上心がある者のチャンスは増やして欲しい。このままでは、なんの発言権もない。結局、やる気がなくなる環境に身を置かざるを得ない。	就業中
体調に合わせて勤務時間を変更できること	就業中
体調悪化時に気兼ねなく休暇がとれるような職場環境・職種をまだ模索中	就業中
短時間で利益を上げられ、体調に合わせて仕事ができたらよいと思います。在宅、テレワークも取り入れて、働く仲間と一緒に取り組めるようにしたい。たまに出勤できるのもよいと思います。	就業中
田舎ほど難病やうつ病に理解が低く同僚には伝えにくい。病気について正しく上司が理解し職場に水平展開していく職場であってほしい。病休は診断書が必要なため通院の都度もらうと料金がかり結果有給を使うことになるのでそういう所が改善して欲しい。	就業中
働きたい人が誰でも働ける社会	就業中
働きたい人が働く社会。ベーシックインカム制度の導入。	就業中
働きやすい環境、通院しやすい環境、急な体調不良で休んでも嫌な顔されない環境、有給休暇や福利厚生など。	就業中
得意な人は自分の裁量で仕事の内容も時間も決められる。そうでない人は、自由に休みがとれる。どんな働き方の場合も休んでも給料が減らない。	就業中
難病があっても無理のない範囲で働く為には職場の理解があつてこそ。障害者雇用を義務付け、雇用しなければ罰金という制度が導入されているが実際の職場では雇用するより罰金を払う選択をする多い企業も多いと思います。実際の現場では障害者は使い物にならないとの意識改革を進めないとダメだと思う。難病患者の雇用についても、雇用したら補助金が出ると知っても実際の雇用にはなかなか繋がらない、本人の能力、素質によるところが大きい、履歴書や面接で難病であることを伝えるとやはりほとんどの場合、不採用になってしまうという現実。都会田舎問わず、障害者・難病患者・企業を繋ぐマッチングサイトなどが発達するといいと思う。	就業中
難病になっても働き続けられる社会になって欲しい。	就業中
難病患者でも見た目は健常者と変わらないため、企業や周囲の理解を得にくく、障害者手帳がなければ就職も困難。まずは病気について理解のある会社で働きたい。	就業中
難病患者は体調の波が大きいので、職場から管理されたり配慮されたりではなく、自分の心身の状況に合わせて「自己決定」できることが体調の安定には非常に大切で有効だと思っています。難病を持つ友人知人では自営業、個人事業主などが割と長く働けている印象です。私自身は自分で仕事内容や量を調節できる職場にいて、ある程度の立場でもあるので、ある意味では理想に近い働き方をしていると思います。ただ収入が低いために将来の経済的不安も大きく、自己肯定感も低めです。体調が悪化して働けなくなったときのセーフティネットが生活保護だけでは安心して働けません。ベーシックインカム制度などがあればもっと安心して色々チャレンジできるのにとっています。	就業中
難病患者は働かなくていいのが理想。	就業中

難病者は、程度によっては、健全者よりも、能力があつたり、一人一人の良さを社会に貢献出来る会社が、あれば持って難病者の雇用促進になると思います。就労支援では、なく、難病者しかいない会社それを社会が、認めて応援してくれる、そんな企業が、存在したらと思います。健全者と同じ程度の収入が、得られるぐらいになると良いですが、現実には、病気になれば、働けなくなるので、患者は、それが、一番の悩みだと思います。	就業中
能力に応じた働き方を推進すべき。一般人よりも障害もちの人のほうが着想、着眼点が優れている場合もあるため。	就業中
必要なスキルを必要な場所で使える働き方	就業中
夫婦二人三脚とも言う様に2人で1人として雇い入れてくれると有難いです。1人で出来ない事でも2人なら出来る事もありますし!!	就業中
僕は自分で動くことはできないので必ず24時間介助が必要なので職場で重度訪問介護を使わなければ就労することはできません。ぜひ、職場でも重度訪問介護を使えるように法改正してほしい。	就業中
面倒くさがられず、普通に仕事がしたいだけです。	就業中
有給が取れて自分の能力に見合った給料を頂ける	就業中
ME/CFSに罹患し、心や思考等は以前と何ら変わらないのに、罹患前のように体を動かすことが難しく、無理に動くとその反動で数日以上は文字通り寝たきりで動けなくなってしまいます。症状で自身の活動時間等自体自由にならない自分にとっては高望みなのかもしませんが、反動が出ないよう注意しつつ、こんな私でも誰かの役に立てる何かを成したいと考えています。	求職中
ME/CFSは人によるが、特に重度は思考するだけで疲労感が襲ってきて突然電池が切れたように動けなくなる。短時間勤務、融通のきく出退勤、休みたいと言いやすい雰囲気など。上記が無理ならその人の体調にあった仕事のあっせんや紹介。事実自分は10年社会に出ておらず、今必要とされている職業で自分にもできるパソコン業務が分からない。そろそろAIやプログラミングの技術によって自分がしてきたwordやexcelの技術など通用しないのではないかと、思っている。ハロワでは通院のための休みすら認められないと言われたので、自分の今の資格でできるか、新たに持った方がいい資格があるのかという話にさえ持っていけなかった。ハロワには通して通えば取れる資格もあるが、毎週月一金はぼろ一日拘束される。通院も許されないし、体調が悪いからと抜けることもできない制度。重度ME/CFS患者にはとても無理。重度でも手帳が無ければ一般的には詐病とされるところ、以前に精神科に通っていると、医療者の間でもシブコだから、と詐病扱いされるので、医療者にも一般にも、こういう疾患で手帳も持てない人がいる事知ってほしいし、医療者にも障害者手帳や障害年金の事をもっと知っていただきたい。	求職中
精神障害は年金という国の生活資金がありますが、難病患者には年金がありません。もしかしたら難病患者の方が先に年金制度の対象にしないといけないと思います。社会には未だ無知すぎる難病。精神障害などは手厚く雇用されていますが、難病??なにそれ??って上場大企業の面接で言われたので、あっ、この会社無理。って思い、丁重に私から辞退をしました。発作がいつ起きるか?不安だらけの身体にどう、仕事を探せるか?仕事はしたいけど、踏み出せないジレンマ。ハローワークに行っても中々わかってくれないし。バリバリ社会で仕事してきた3人家族の一軒家で過ごす普通の人間が、次の日から奈落の底に落とされ、住宅ローンの返済も、全てが-----。息している事自体が奇跡です。もっと金銭的支給を日本国がしてくれたら助かります。言いたいこと沢山あります。私に直接ヒアリングしてもいいですよ。白書に協力しますよ。どうせ暇なので。	求職中
その日に動けるかどうかは当日にならないとわからないので、突発的に休める状況が必要です。	求職中
テレワーク 扶養範囲内	求職中
テレワーク就労で時短勤務が可能であること。現在応募中の企業さまは、在宅勤務で週30時間(6時間×5日)勤務が条件。私の希望は週20時間(5時間×4日)だが、透析患者さん以外は時短勤務が認められていない為、諦めざるを得なかった。障害者雇用で在宅勤務の募集はまだ少数なので、企業側の条件を飲むしかないのが現状だと思う。応募先は東京都内の企業なので、長野県に住んでいても、東京都の最低賃金が適用される。また、契約後6ヶ月で正社員登用の可能性がある(今まで、全員(50人超)が正社員登用の実績あり)企業なので、時短が無理でも、ぜひ応募したいと思った。書類選考→一次面接→トライアル課題→二次面接→採用検討会を経て、可否が決定される。現在、二次面接を受けられるところまで来ている。大企業の特例子会社で、様々な障害の人が働いている企業であり、疾患や障害に理解があると(知人=障害のある社員さんから)聞いている。今後、もっと在宅ワークの人材募集が増えれば、障害のある人も働きやすくなるのではないと思う。通勤が負担になる私の様な人も、周囲に人の目があると働けない人も、在宅であれば働いて社会に貢献出来る。長い目で見れば、国の財政面にメリットが大きいはずなので、国として障害者雇用にテレワークを取り入れる為の、働きかけをしてもらえたら良いと考えている。	求職中
ナルコレプシーはテレワークで就労可能	求職中

ベーシックインカムと障害年金で生活して、体調がよい時に気が向いたらテレワークで社会参加できるような感じ。	求職中
具合が悪い時は休める。	求職中
健康上の不安や問題を持たずにフルタイムでの就労に復帰したい。それが叶うなら満員電車に揺られノルマに追われる毎日でも喜んで働く。元社畜だったせいか、何も生み出せない今の自分に価値観が見出せない。	求職中
現状は家から出れない。動けないので、PCを使ったりする在宅ワークしかできない。それだとほぼ稼げないので、給与の改善を希望したい。	求職中
在宅でのテレワークで、時間などの自由度の高い働き方。ただ、障害者雇用や難病だからと言って、職務を過剰に軽減されるのは、それは違うのではないかと思う。将来的には、難病の人で会社を立ち上げたいと思っている。	求職中
在宅でヘルパーさんのいる時間であっても勤務出来る。及び短時間勤務	求職中
在宅ワークが浸透して欲しい。	求職中
残業と通勤がなく、たまに横になれる環境だと休まず働けると思う。	求職中
私は永久ストマでトイレの回数が多いなど仕事に支障がある事は少ないです。でも、難病、障害者と言うだけで電話問い合わせでも明らかに嫌な声をされます。でも無下にして訴えられるのが嫌なのか面接だけはしてくれます、形だけの…どこに相談したらいいかも分からないし(前に相談しましたが私の条件だと民間の求人雑誌で探すしかないと言われました)コロナもあるしいつ仕事ができるかこの先不安です。私は働きたい！	求職中
疾患の理解があり、環境が整ってる。	求職中
紹介された仕事を繋ぎ止めるので精一杯。フルタイムで疲れやすい症状のある難病患者が勤務できる場所は見当たらず、障がい者手帳や年金に該当しなければ生活保護になるしかない。自分のスキルをいかせるチャンスがほしいです。	求職中
障害者手帳がなく、健常者でもないどこにも引かからないが障害がある人でも配慮ある働き方を望む。新卒しか採用されないような状態は良くない。新卒よりも意欲的な人間は積極的に雇う社会になることを望む。	求職中
人事以外の周囲の病気への配慮があり地方でも障害者雇用について理解の深い社員への理解の浸透化	求職中
働きたい時だけ働ける	求職中
テレワーク、在宅勤務は本当できる職場多いと思います。取り入れつつ、働く意欲のある障害者の受け入れ増やしてほしい	未経験・休職中
ベッドの上からでも働ければ良いのに。	未経験・休職中
円錐角膜でも障害者認定を頂けるように改善されて、手帳を手に入れて障害者枠できちんと働けるようになること	未経験・休職中
会社や通勤時にもっとバリアフリーが進んで欲しい	未経験・休職中
外に出るなら、時短勤務が身体的にも望ましいのだと思う。在宅で仕事できるなら、在宅がベストのような気がする。	未経験・休職中
完全テレワークの理解	未経験・休職中
完全なクリーンルームで働きたい	未経験・休職中
基本的な人権が尊重される社会で、誰もが疾患に後ろめたさを感じずに、自分の持ち味を生かし堂々と働ける。●病気の事を話しやすく、また、病状に応じた配慮を求めやすい職場環境。●治療と仕事が両立しやすい。●「疾病=退職・離職」を安易に薦められない。●障害者手帳の有無に限らず、必要な支援が受けられる。など…夢物語のようですが、患う前も、患った後も、人として大切にされる世の中になる事を願っています。	未経験・休職中
休みを取るのが悪、という企業が多すぎて辛いです。	未経験・休職中
経験のない職種でも経験を持たせてほしい。自分は元気の時は工場関係の仕事してました。今障害を持って力仕事ができなくてしまいデスクワーク位しかできないと思ってます。面接しても経験がないからでしょう、すべて不採用でした。	未経験・休職中
健康不安がないこと	未経験・休職中
健常者と違い、バリバリ働けない難病の人たちが、負担の少ない仕事で自立できるくらいの給料がもらえたらいいと思う。	未経験・休職中

原因不明の痛みで悩まされること既に8年。現在、線維筋痛症と診断されて2年、主症状は慢性疼痛だが、それに関しては障害者手帳の申請は門前払い、うつ診断により精神3級をかりうじて取得している状態。しかもこれは次の更新がされない可能性がある。ぜひとも身体で障害者手帳を取得できるように制度改革してほしい。自分の特性は、どこかの会社に雇われるという働き方は正直向いてないと思う。クリエイティブ系、服飾系に興味があり、その分野で自由契約でやろうとしても、東京以外の田舎に住んでいたこともあり、そもそも健康体でも自由契約では仕事を得て収入を得ることがきついたために仕方なく様々な会社に勤めていた。体を壊してしまう前に、もっとゆるく働ける社会の仕組みであれば、こんなことにはならなかったのではないかと考えている。というか、体力があまりないほうだった自分にとっては週5出勤がそもそもきつかった。でも週5勤務しないと暮らしていけない。生活がきつすぎる。もっと勤務時間を減らしても普通に生活していける社会制度がそもそもない日本では望みが無い。症状が出る前から働いて生活費を稼ぐだけで精一杯だった。もっと金銭的、時間的、体力的に余裕のある生活や人生を送りたかった。体を壊してしまい、もう一般社会に戻るのには絶望的な現在。障害者向けの近隣のB型事業所ですら、無理だった。合わなかった。週2回以上の通所を強要されて無理とお断りした。体調への理解がなかった。他のB型事業所で良さげなところを探しても、片道1時間以上かかる場所だったりしてあきらめている。その距離では週1回でも通える自信ない。これは、コロナ流行前からずっとそうだった。コロナ流行でテレワークが浸透したら少しは社会復帰の望みがあるかと思ったがあまり浸透したとは思えないため、引きこもり生活をせざるを得ない。このテレワーク自体、会社に努めている人がリモートワークに切り替えしているだけで、新規のテレワークまで仕事が回ってきていないのが現状であろう。	未経験・休職中
個人それぞれが働きたい場所、好きな時間に働き、その時必要な人達と力を合わせる。互いを尊重し、良い所を引き出し合い、想像を越えるものを産み出すこと。そんな環境で仕事がしたいです。	未経験・休職中
雇用されるのではなく、個人事業主として、もしくはフリーランスで働くのが理想です。就業時間も就業日も、自分で自由に管理したい。	未経験・休職中
今となっては難しいが職人的に一つの事のスペシャリストとしてありたい。同時に社会参加の実感が欲しい。過去のスキルも活かしたい。だが、そういったものを一切諦めて今生きているので、非常に難しいであろうと思う。	未経験・休職中
在宅ワーク出来る仕事をもっとあるといい	未経験・休職中
在宅勤務。自分の勤務時間を自分で決められる。障害有無に関係なく、自分ができること、得意なこと個々が集中して取り組める職場環境	未経験・休職中
仕事を選んで、キャリアアップ出来る仕事。ちなみにケアマネの資格が欲しいです。	未経験・休職中
自宅で病状が落ち着いた時にできる	未経験・休職中
自分のスキルを最大限に活かす	未経験・休職中
自由自在に出勤日と時間が選べる	未経験・休職中
自由出勤・長期休暇制度など海外にあるような働き方	未経験・休職中
疾患の特徴上、一日の中でも波があるので、自分のペースに合わせた就労形態が持てること	未経験・休職中
社会に出ても完璧に就業出来ず、他に迷惑をかけるので働くことは諦めている。	未経験・休職中
出来る事を続けられる環境を整えて欲しい	未経験・休職中
障害年金が受給出来る用になって、自分が自分のペースで出来る物作りをして生活がしたい	未経験・休職中
寝てても出来る	未経験・休職中
辛くなったら休憩できて、通勤なし、が理想。でも本当は病気になる前のように、好きな仕事で時間を忘れて夢中で働きたい。	未経験・休職中
全てオンラインで可能。身体障害者手帳の取得、もしくは手帳が無くても障害があると認められる社会	未経験・休職中
体調に合わせて融通が利く、さらにその分同僚などに迷惑、嫉妬せががかららないこと	未経験・休職中
体調に無理なく負担なく働けて、人生を開いていくような働き方ができると理想的かもしれない。障害があったり体調が悪くても、在宅で超時短勤務なら可能という人もいると思う。在宅で週に一日1時間、月に数日1時間くらいの超時短の仕事がでてくるとよいと思う。収入の意味でももちろんだが、社会とつながれる、少しでも働けることで、生きがいができ、孤独が和らぎ、回復にもつながる可能性がある。	未経験・休職中
体調の良い日、良い時間帯だけ出勤。又はテレワーク	未経験・休職中
誰でも自らが選べる働き方	未経験・休職中
働かないと生きていけない状況です。何でも良いから働かないと、病院に行けなくなります。在宅でできる仕事をしたいです。	未経験・休職中
働ける時間、日に働けること	未経験・休職中
働けるときだけ出勤	未経験・休職中

突然「今日行けません」はかなり有りうるのでテレワーク勤務、期日の迫っていない案件など。前述の通りケアマネに言われてから以後、仕事は探していません。が、医療費は年間60万は超えるので自己破産しました。パソコンは使えるので、何とか普通の時給で働きたいです(どう説明したらいいのかわからない責任持って仕事しますが…)	未経験・休職中
日によって起きられる日、動けない日があるので、当日でも出勤や時間を選べるとありがたい	未経験・休職中
病気があって体力がないが、みなさんと同じように、仕事と育児の両立をしたい。それにはどちらもサポートがいる。仕事は勤務日数、時間を減らす働き方でクリアでき、育児のサポートはヘルパー利用できればよいと思う。	未経験・休職中
病状が楽な時だけ参加出来る働き方、24時間いつでも、数分でも、少しでも参加出来ることがあれば参加出来るような日もあるから少しでも何か社会参加出来ればよいと思っている。	未経験・休職中
負担をあまり感じない環境が有るならば欲しい。	未経験・休職中
無理なく、穏やかに仕事をしたい	未経験・休職中

50代～	
OriHimeなどの活用の方も広がるといいと思う	就業中
いつでもどこでも誰とでも出来る仕事、働き方	就業中
テレワークできる環境での就労、なぜなら通勤に身体的な負担があるから	就業中
なかなか理想に巡り会えていないので、理想のイメージがつかめていない。	就業中
まず、医療関係者が勉強すべき！ 正しく診断し、患者の言葉を聞き、理解ある姿勢になること。コロナも大事だけど、同じようにもっと研究・対応してほしい。	就業中
リモート推進により多様な働き方を増やしてほしい	就業中
介助者が専属以外の職員も介助など協力してソフト面でもバリアフリーに	就業中
会社の経営は営利目的でありボランティアでは無いのでどんな形で貢献出来るか常に考える必要があると感じています。	就業中
各自残存する能力を生かせる働き方が理想	就業中
経営者	就業中
月並みではあるが、通院・治療を継続し、少しでも寛解に近づこう努力しながら、自分の専門性を発揮できるような働き方をしたいと思っている。その意味で今回のCOVID-19を契機として導入が進んでいるテレワークは自分にとっては、それを可能とする一つの重要な手段となっていると感じている。	就業中
今のところは場所もいいし雇用方法も理想に近いがクローズしそうなので、次に行くところの場所が心配。結局私には内容より働く場所が大切だと思います。	就業中
今の体調のままであるならば、休みたい時に休めたら助かる。	就業中
今現在、健常者と変わらないが、病気が進行した場合の働き方および職場の理解を得る必要がある。	就業中
今現在に不満はないが、上司が少しでも病気に対する理解と配慮をしてくれると嬉しい	就業中
仕事で無理して病状を悪化させ、それでも生活があるから休むことが出来ずに益々悪化し更に無理する事になる。それを避ける為の金銭的支援と、在宅などの仕事のスキルアップや就労斡旋が有ると良い。	就業中
時間と場所に縛られないこと	就業中
自己の能力を発揮しやすい得意なことに絞って、自宅など体調管理のしやすい環境で、体調の良い時期に集中的に取り組めるような働き方。	就業中
自分が障害者だということを受け入れられない現実の中で、周囲に何かを求めるのは、自分の足りなさを認められないからだと思う。僕自身発病してから10年たつが、まだ自分が障害者だと受け入れられないところがある反面、周りにもっと配慮をしてくれと無意識に思ってしまう。自分ができることでの賃金評価が低くても、それが健常者との違いなんだと受け入れるしかないと思う。	就業中
自分のいしで自由に働く	就業中
自分の能力がいかにできること。能力が正当に評価され、それに見合う報酬があること。仕事以外にプライベート、睡眠、食事等の時間が確保されていること。社会貢献している実感があること。楽しいこと。仕事を通してスキルアップできること。	就業中
自由(責任を伴う)に働ける環境。	就業中
社会や企業の理解が必要だと思う 今回安倍元首相が持病を理由に退任したが、何故周りの人達が支えて 残り任期を全うできなかったかとても残念に思うのです。 病気があるなら退任は当然の空気が なくなって欲しいですね。	就業中
出社もテレワークも選べる自由度の高い働き方のほうが結果として個々人のポテンシャルをより発揮させると思う。	就業中
障害があるとわかってても雇用してくれて事に感謝しています	就業中
障害があるなしにかかわらず、在宅勤務、時短勤務など、全て人が柔軟な働き方ができ、またそれが非正規でなく正規社員としてできること。	就業中

障害だ病気だという前に、我が国は生き方のモデルケースがとてもなく「普通」のハードルが実は非常に高く厳しいのが特徴だろうと思う。その辺りが「理想の働き方」にも残念な意味合いで反映しすぎているし、ドロップアウトを恐れて誰もが本当に選択したい働き方や生き方を選べてはいない。これは障害当事者や難病患者の人生をさらに苦しくさせているだけではなく、健常者と呼ばれる人たち自身の人生も息苦しくさせていて、国力そのものの低下の遠因にもなっていると痛感する。「お国柄」だと言ってしまうとそれまでなのだろうが…みんなが生きづらく息苦しい現代社会だからこそ大胆な改革が必要だろうし、ワンパターンのルールにはめられたような就労(人生)モデルだけをよしとせず、いろいろな人が「真に」自分の能力に応じて働ける社会、或いはライフステージの変化に応じて緩く変化し得る働き方(結婚や出産育児、介護など家庭の状況の変化に合わせて、本来の意味で不利にならずに働き続けられる社会)や、働く人と何らかの事情で「今は働けない人」の対立だけをあおるような空気の撤廃など…願う事がいっぱいあり過ぎる。	就業中
障害者、健常者の違いに拘らず、全ての人が同じ条件で働ける社会を構築する。例えば現状では、育児、看護ではそれに特化した休暇が設けられている会社は多いが、自身の治療への専門休暇を設けている会社は少ない。通常付与されている有休を消化することになっている。誰でも育児、家族の看護、自身の疾病は起こりうる話なのに、本人治療のための休暇を社則に記載しない企業が多いのは何故なのか。	就業中
障害者も難病患者も健常者も、自分の能力が発揮できる職場になれば、誰にとっても働きやすい環境になる。神経難病患者にとっては、テレワークは非常にありがたい。移動で消耗する部分が無いため。テレワーク普及により、通常の就労条件が緩和される方々が増えると良い。	就業中
職場や上司が疾患のこと(症状が変わりやすい等)を理解し、応援してくれること	就業中
身体的な無理をせず、自分のスキルを活用でき、経済活動を維持したい。	就業中
体調によって勤務時間を調整できるよう、客観的な評価方法の確立を望む。	就業中
体調や病気に合わせた働き方と健常者と同じ雇用形態で働ける職場	就業中
通院や急な入院に対応してくれる。	就業中
働き方改革に則った働き方。理想であり現実ではない。実現させるには自己改革が自分には必要。	就業中
突然、体調を崩すことも多いのでその際の工夫が課題である	就業中
難病者と言っても、その発症時期によって置かれた立場の違いがあると思う。私は成人からの発症で、それまでのキャリアを手放す形になった。応援してくれる同僚には励まされたが、会社の上層部の考え方も知る立場にいたため、治療しながら、再燃を繰り返しながら仕事を続ける肩身の狭さをどうしても拭えなかった。仕事内容をもっと多様化すれば、今までの経験を活かすポジションを作ることができるのではと思うが、私の立場から…もっと言えば、何度も繰り返す再燃で精神的にもどん底に落ちてる時期には、提案などできる状態ではなかった。私は難病者の就労についてどのような制度があるのかほとんど理解ができていない為、ピントがずれているとは思いますが…難病者を受け入れる事のメリット届出などの手続きの煩雑さの改善など難病は誰でも発症する可能性がある。自分ごとと思いついて受け入れる体制が整い、支え合うことの当たり前さが働く場に浸透していく事を願ってやまない。	就業中
日本はとかく病気や障害がかかえて、仕事を失うと再就労へのハードルがとて高くなりがちです、ころんでも立ち上がれるそんな社会になってもらいたいです。	就業中
年間労働時間数で契約。	就業中
年齢が行っていても再就職可能(特に男性)	就業中
本音を言えばもう働きたくありません。もう沢山です。しかし、生きる為に働くのみです。	就業中
満員電車で車椅子で肩身の狭い思いをして通勤せずに、病気を理由に自分の力が発揮できる仕事を辞めなくても良い働きかたが理想です。	就業中
無理せず自分のペースで。	就業中
テレワーク	求職中
テレワークが増えることにより、障害者も働きやすくなるが、健常者も同じ条件だから、差別がなくなるのが理想	求職中
フォロー体制が出来、責任負担が少ない	求職中
一般就労と同等に働く。	求職中
健常者が事故や病気で中途障害者になっても障害や病気を理由に解雇される事の無い様に労働者を守って欲しい。	求職中
個人の得意分野を活かす事が出来る働き方	求職中
好きな時間に、体調に合わせて出来るテレワーク等があればと思いますが、なかなか難しそうです。	求職中
在宅ワークで働いている障がい者と同じような環境で働けること。	求職中
治療(透析)と仕事のどちらもが無理なく成り立つ働き方ができれば理想です。	求職中
自由時間での勤務	求職中
障害者手帳の有無に限らず、どんな障害、病気でも働きやすい理解と配慮のもとで就労、特に短時間やテレワークが可能になれば嬉しいです。	求職中

寝たきり状態の病人でもできる仕事	求職中
体調が不安定であってもカバーしあいながら持っている能力を発揮していく社会になってほしい。体調が悪くて休むことを責める(社会人の自覚としての体調管理が出来ていない)話を耳にすることが多く、本当に心が痛い。	求職中
地獄の人生経験を無駄にしたいくない。当事者主導の社会問題解決。これからも行政や企業へ指導していく。この内容で本も書いているので、ご興味あれば是非お読みください。取り組みに賛同します。協働出きる事あれば、お話したく存じます。	求職中
発症以前と同じように働くこと。	求職中
病気による偏見や差別など分け隔てなく、また体調不良による急な休みであってもある程度寛容に受け止めてくれる周りの理解。	未経験・休職中
テレワーク。	未経験・休職中
テレワークの充実	未経験・休職中
もう生きてゆく自信がありません	未経験・休職中
横になりながらも仕事が出来たらと感じます。もう30年仕事が出来ていないのでスキルが無く致命的なのはわかりますが、これからも出来ることを探すことは諦めたくないですし、社会と繋がり収入を得て行けたらと思います。	未経験・休職中
化学物質過敏症なので、学校から職場まで、必要に応じて個室が必要だと思う。	未経験・休職中
強みを生かせる	未経験・休職中
個々を活かす場が広がること。それを采配できる指導者や上司がいること	未経験・休職中
個人的には居間の状態だと週3日1日3、4時間、基本自宅勤務くらい。社会的には誰でも週30時間労働くらいでないと家庭との幸福感のある両立は無理ではないかと考える。	未経験・休職中
在宅ワーク	未経験・休職中
社会保障を充実させてそちらをで補填する方が良い仕事を無理矢理させる必要はないしたい人がするのは良いが非常に困ることはたくさんある	未経験・休職中
就業時間の自由、通院に関する休暇取得の緩和	未経験・休職中
出来れば寛解に近付いて普通に働きたいが専門医からは寛解は難しいと言われているので、在宅勤務で体調に合わせた働き方が出来ると嬉しい。	未経験・休職中
障害や疾患のあるなしに関わらず、自分が望むスタイルで働ける多様な働き方が取り入れられる事が理想	未経験・休職中
線維筋痛症は体調が一日の中でもコロコロ変わります。お休みの取りやすい環境だと助かります	未経験・休職中
体調に合わせた職業の選択肢が広がること	未経験・休職中
体調の状況により勤務内容を相談出来て、働き続けられる事	未経験・休職中
体調の良い時に良い時間だけ働けると良いが、自身が雇用側でもそれは難しいとは思いますが。難病でも障がい者雇用があると違うかも知れない。	未経験・休職中
大卒後、クローズでギリギリの状態フルで勤めていたが、結婚後、両立できなくなり、仕事を辞めざるを得なかった。その後も体調が整わず、ブランクが空いてしまい、そのうち老化が急速にやってきて今に至る。休日以外に体調を整える有給休暇がないと、やはりハンデがある人間は長く仕事は続けていけないし、健常者とのスタートラインにすら立ててないと感じる。	未経験・休職中
誰もが、本人のペースで仕事のできる社会	未経験・休職中
病院受診時や体調不良時休む事への理解	未経験・休職中